

第3編 特別の教科 道徳、総合的な探究の時間、特別活動

第1章 特別の教科 道徳〈特別支援学校（知的障害）〉

第1節 目標及び内容

【知教解(下) P291】

高等部における道徳科の目標及び内容については、小学校学習指導要領第3章及び中学校学習指導要領第3章に示すものを参考とし、さらに、青年期の特性を考慮して、健全な社会生活を営む上に必要な道徳性を一層高めることに努めるものとする。

第2節 特別支援学校における配慮事項

指導計画の作成と内容の取扱いについては、次の事項に十分配慮する必要がある。

- 1 社会生活における活動範囲の広がりによる交際の範囲や経験の広がりなどや、生徒の知的障害や社会適応の状態などについて考慮することが大切である。さらに、高等部には中学部や中学校特別支援学級等からの進学者が在籍しており、知的障害の状態や経験、興味・関心などが多様なため、中学部又は中学校との連携を図るなどして、個々の生徒の実態に即して、一貫した道徳教育を進めることにも配慮する必要がある。特に、一斉指導に偏ることなく、必要に応じて個別指導を取り入れるなどして道徳的実践力が身に付くよう計画することが大切である。
- 2 個々の障害の状態により、結果として様々な経験の不足が課題になることがあるため、各教科、総合的な探究の時間、特別活動及び自立活動の指導との関連を密にしながら、経験の拡充を図ることによって、豊かな道徳的心情を育て、広い視野に立って道徳性が養われるように指導する。
- 3 個々の知的障害の状態、生活年齢、学習状況や経験等に応じた指導の重点を明確にし、具体的なねらいや指導内容を設定することが重要である。その際、生活に結び付いた実際の体験を重視することが必要である。

「道徳の内容」の学年段階・学校段階の一覧表（小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領〔平成29（2017）年3月〕）

	小学校第1学年及び第2学年（19）	小学校第3学年及び第4学年（20）
A 主として自分自身に関すること		
善悪の判断、自律、自由と責任	(1) よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。	(1) 正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。
正直、誠実	(2) うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること。	(2) 過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。
節度、節制	(3) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活すること。	(3) 自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活すること。
個性の伸長	(4) 自分の特徴に気付くこと。	(4) 自分の特徴に気づき、長所を伸ばすこと。
希望と勇氣、努力と強い意志	(5) 自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。	(5) 自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。
真理の探究		
B 主として人との関わりに関すること		
親切、思いやり	(6) 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。	(6) 相手のことを思いやり、進んで親切にすること。
感謝	(7) 家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。	(7) 家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。
礼儀	(8) 気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。	(8) 礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること。
友情、信頼	(9) 友達と仲よくし、助け合うこと。	(9) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。
相互理解、寛容		(10) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。
C 主として集団や社会との関わりに関すること		
規則の尊重	(10) 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。	(11) 約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。
公正、公平、社会正義	(11) 自分の好き嫌いとらわれないで接すること。	(12) 誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。
勤労、公共の精神	(12) 働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。	(13) 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。
家族愛、家庭生活の充実	(13) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つこと。	(14) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること。
よりよい学校生活、集団生活の充実	(14) 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくすること。	(15) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくること。
伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	(15) 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。	(16) 我が国や郷土の伝統と文化を大切に、国や郷土を愛する心をもつこと。
国際理解、国際親善	(16) 他国の人々や文化に親しむこと。	(17) 他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと。
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること		
生命の尊さ	(17) 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。	(18) 生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。
自然愛護	(18) 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接すること。	(19) 自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること。
感動、畏敬の念	(19) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。	(20) 美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。
よりよく生きる喜び		

小学校第5学年及び第6学年 (22)	中学校 (22)	
(1) 自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。	(1) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。	自主、自律、自由と責任
(2) 誠実に、明るい心で生活すること。		
(3) 安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。	(2) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。	節度、節制
(4) 自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。	(3) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。	向上心、個性の伸長
(5) より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。	(4) より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。	希望と勇気、克己と強い意志
(6) 真理を大切にし、物事を探究しようとする心をもつこと。	(5) 真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。	真理の探究、創造
(7) 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。	(6) 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。	思いやり、感謝
(8) 日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。		
(9) 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。	(7) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。	礼儀
(10) 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。	(8) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。	友情、信頼
(11) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。	(9) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。	相互理解、寛容
(12) 法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。	(10) 法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。	遵法精神、公德心
(13) 誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。	(11) 正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。	公正、公平、社会正義
(14) 働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること。	(12) 社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。	社会参画、公共の精神
	(13) 勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。	勤労
(15) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。	(14) 父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。	家族愛、家庭生活の充実
(16) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合っよりよい学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中の自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。	(15) 教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合っよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。	よりよい学校生活、集団生活の充実
(17) 我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。	(16) 郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
	(17) 優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努めること。	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度
(18) 他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。	(18) 世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。	国際理解、国際貢献
(19) 生命が多くての生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。	(19) 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。	生命の尊さ
(20) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。	(20) 自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること。	自然愛護
(21) 美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつこと。	(21) 美しいものや気高いものに感動する心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること。	感動、畏敬の念
(22) よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる。	(22) 人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見いだすこと。	よりよく生きる喜び

第2章 総合的な探究の時間

第1節 目標及び内容

【総解 P283】

総合的な探究の時間の目標、各学校において定める目標及び内容並びに指導計画の作成と内容の取扱いについては、高等学校学習指導要領第4章に示すものに準ずるほか、本章第2節に示す特別支援学校における配慮事項によるものとする。

第2節 特別支援学校における配慮事項

指導計画の作成と内容の取扱いについては、次の事項に十分配慮する必要がある。

- 1 個々の生徒の実態に応じ、補助用具や補助的手段、コンピュータ等の情報機器を適切に活用する。
- 2 体験活動に当たっては、生徒、教職員、外部の協力者などの安全確保、健康や衛生等の管理に十分配慮する。また、高等学校等との交流及び共同学習を通して体験的な学習などが展開できる場合もあるため、学習活動に応じて、適切に交流及び共同学習を行うようにする。
- 3 知的障害のある生徒の指導に当たっては、各教科等の学習で培われた資質・能力を明確にし、それらを総合的に関連付けながら、個別の指導計画に基づき、一人一人の具体的な指導内容を設定することが大切である。また、主体的・協働的に取り組めるようにするために、個々の生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況や経験等を考慮しながら、単元等を設定し、生徒が自らの課題を解決できるようにする。

第3章 特別活動

第1節 目標及び内容

【総解 P286】

特別活動の目標、各活動・学校行事の目標及び内容並びに指導計画の作成と内容の取扱いについては、高等学校学習指導要領第5章に示すものに準ずるほか、本章第2節に示す特別支援学校における配慮事項によるものとする。

第2節 特別支援学校における配慮事項

指導計画の作成と内容の取扱いについては、次の事項に十分配慮する必要がある。

- 1 ホームルーム活動においては、適宜他の学級や学年と合併するなどして、少人数からくる種々の制約を解消し、生徒が互いのよさや可能性を発揮しながら、多様な他者と協働することができるようにする。
- 2 生徒の経験を広めて積極的な態度を養い、社会性や豊かな人間性を育むために、集団活動を通して高等学校の生徒などと交流及び共同学習を行ったり、地域の人々などと活動を

共にしたりする機会を積極的に設けることが必要である。その際、生徒の障害の状態や特性等を考慮し、活動の種類や時期、実施方法等を適切に定めることが必要である。

- 3 個々の生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じた指導の重点を明確にし、具体的なねらいや指導内容を設定する。その際、生徒の理解に基づく、生活に結び付いた内容を、実際の場面で具体的な活動を通して指導する。

第4編 自立活動

第1章 自立活動の基本

第1節 自立活動の意義

【自解 P21】

1 自立活動とは

自立活動は、個々の生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取組を促す教育活動である。

障害のある生徒の場合は、その障害によって、日常生活や学習場面において様々なつまずきや困難が生じることから、高等学校の生徒と同じように心身の発達の段階等を考慮して教育するだけでは十分とは言えない。このため、特別支援学校においては、高等学校と同様の各教科等のほかに、特に「自立活動」の領域を設定し、その指導を行うことによって、生徒の人間として調和のとれた育成を目指しているのである。

2 自立活動の教育課程上の位置付け

特別支援学校の目的は、学校教育法第72条において、次のように定められている。

＜ 学校教育法第72条（特別支援学校の目的） ＞

特別支援学校は、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者（身体虚弱者を含む。以下同じ。）に対して、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けることを目的とする。

この後段には、自立活動の指導を行うことが示されている。自立活動は、特別支援学校の教育課程において特別に設けられた指導領域であり、授業時間を特設して行う自立活動の時間における指導を中心とし、各教科等の指導においても、自立活動の指導と密接な関連を図って行われなければならない。

第2節 自立活動の指導の基本

1 自立活動の指導の特色

【自解 P23】

自立活動の指導は、教科指導のようにあらかじめ指導内容が決まっているものではなく、個々の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に即して、指導の道筋そのものを組み立てていくことが求められる指導である。その指導に当たっては、個々の実態を的確に把握し、個別に指導目標や具体的な指導内容を定めた個別の指導計画が作成される。

そのため、自立活動の指導は、個別指導の形態で行われることが基本である。しかし、指導目標を達成する上で効果的である場合には、集団を構成して指導することも考えられる。

2 自立活動の内容とその取扱いについて

学習指導要領に示されている自立活動の「内容」は、人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素と、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素で構成されており、それらの代表的な要素である27項目を「健康の保持」「心理的な安定」「人間関係の形成」「環境の把握」「身体の動き」及び「コミュニケーション」の六つの区分に分類・整理したものである。

個々の生徒に設定される具体的な指導内容は、実態把握に基づき、自立を目指して設定される指導目標を達成するために、学習指導要領に示されている内容から必要な項目を選定しそれらを相互に関連付けて設定されるものである。

3 自立活動の指導の進め方

【自解 P40】

自立活動の指導は、個別の指導計画に基づき、計画 - 実践 - 評価 - 改善という一連の過程を繰り返すことで進められる。その際には、次の点について留意する。

- (1) 個別の指導計画の作成に当たっては、個々の生徒に関する様々な実態の中から必要な情報を把握して的確に課題を抽出し、指導すべき課題相互の関連を検討し、指導目標や具体的な指導内容を設定することが大切である。
- (2) 学習の評価及び指導の改善に当たっては、自立活動の場合、指導目標や指導内容が個別に設定されていることから、計画の妥当性を詳細に検討するとともに、指導の効果をどのように評価するのかについて明らかにしておく必要がある。その際、指導の効果を適切かつ多面的に判断するため、自立活動の指導の担当者だけでなく、各教科等の指導にかかわっている教師間の協力の下に評価を行うとともに、必要に応じて、外部の専門家や保護者等との連携を図ることも大切である。
- (3) 個別の指導計画の引継ぎ、活用についての考え方や留意点を明確にし、個々の障害の状態や特性及び心身の発達段階等や自立活動の学習状況等を踏まえた継続的な指導が行われるようにすることが大切である。

4 特別支援学校（知的障害）の自立活動

【自解 P41】

知的障害のある生徒には、全般的な知的発達の程度や適応行動の状態に比較して、言語、運動、動作、情緒、行動等の特定の分野に、顕著な発達の遅れや特に配慮を必要とする様々な状態が知的障害に随伴して見られる。そのような障害の状態による困難の改善等を図るためには、自立活動の指導を効果的に行う必要がある。なお、学校教育法施行規則第 130 条第 2 項に基づいて、各教科、道徳科、特別活動及び自立活動の一部又は全部について、合わせた指導を行う場合においても、自立活動について個別の指導計画を作成し、指導目標や指導内容を明記する必要がある。

第 3 節 障害の捉え方と自立活動

【自解 P12】

国際生活機能分類（ICF:International Classification of Functioning, Disability and Health 平成 13(2001)年 5 月）では、人間の生活機能は、心身機能・身体構造、活動、参加の三つの要素で構成されており、それらの生活機能に支障がある状態を「障害」と捉えている。そして、生活機能と障害の状態は、健康状態や背景因子（環境因子、個人因子）と相互に影響し合うものと説明している。

自立活動の指導においては、このような ICF の視点を踏まえ、生活機能と障害の状態、背景因子（環境因子※、個人因子※）等を的確に把握し、相互の関連性を十分に考慮して、「障害による学習上又は生活上の困難」を捉えるとともに、成長期にあり様々に変化する生徒の実態を見極めながら、現在できていることや、指導すればできること、環境を整えればできることなどに着目し、具体的な指導内容を設定することが大切である。

※環境因子：福祉用具、周囲の人の意識等 個人因子：意欲、習慣等

第4節 自立活動と合理的配慮

【自解 P16】

自立活動の指導に当たっては、指導内容と合理的配慮の内容との関連性についても十分考慮する必要がある。

例えば、小さい文字が見えにくい弱視の生徒が、他の生徒と平等に授業を受けられるよう、教師が拡大プリントを用意することは、この生徒に対する合理的配慮である。一方、この生徒がプリントの文字が見えにくいという学習上の困難を主体的に改善・克服できるよう、弱視レンズ等を活用できるよう指導することは、自立活動の指導である。

このように、生徒の持てる力を高め、学習上又は生活上の困難を改善・克服できるよう、教師は、その時々々の生徒の状態等に応じて、指導が必要な中心的な課題と合理的配慮の内容について整理し、適切な指導・支援の充実を図ることが大切である。

ポイント解説

< 合理的配慮 >

「合理的配慮」とは、障害のある生徒が、他の生徒と同様、公平に教育の機会に参加することを目的として、学校の設置者及び学校が社会的障壁を除去するために行う「必要かつ合理的な取組」のことである。

合理的配慮の提供に当たっては、本人・保護者と学校の設置者及び学校が、建設的対話による相互理解を通じて合意形成を図ることが重要である。なお、合理的配慮の内容は、個別の教育支援計画に記載し、定期的に見直すことが必要である。

第2章 自立活動の目標

【自解 P48】

自立活動の目標は、高等部学習指導要領の第6章 自立活動において、次のように示されている。

第1 目標

個々の生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

<自立>

生徒がそれぞれの障害の状態や発達の段階等に応じて、主体的に自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きていこうとすること

<改善・克服>

生徒の実態に応じ、日常生活や学習場面等の諸活動において、その障害によって生ずるつまずきや困難を軽減しようとする事

障害があることを受容したり、つまずきや困難の解消のために努めたりすること 等

<調和的発達の基盤を培う>

発達の遅れや不均衡を改善したり、発達の進んでいる側面を更に伸ばすことによって遅れている側面の発達を促すようにしたりして、全人的な発達を促進すること

第3章 自立活動の内容

活動の内容の項目ごとに、当該項目を中心とした具体的な指導内容の例を次に示す。

第1節 健康の保持

【自解 P51】

1 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事

体温の調節、覚醒と睡眠など健康状態の維持・改善に必要な生活のリズムを身に付けること、食事や排泄など生活習慣の形成、衣服の調節、室温の調節や換気、感染予防のための清潔の保持など健康な生活環境の形成を図ること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
重度・重複障害	・覚醒と睡眠のリズムが不規則で体力が弱く、食事の量や時間、排泄の時刻が不規則である。	・家庭と連携を図り、生徒の1日の生活状況を具体的に把握した上で、生活のリズムを形成するために、朝決まった時刻に起きることができるようしたり、日中は体を動かす活動や遊びを十分に行って、目覚めた状態を維持したり、規則正しく食事を摂ったりできるようにする。
自閉症	・極端な偏食や特定の衣服への強いこだわりがある。	・個々の困難の要因を明らかにし、無理のない程度の課題から取り組めるようにする。
ADHD	・周囲のことに気が散りやすく一つ一つの行動に時間がかかり、整理・整頓などの習慣が十分に身に付かない。	
自閉症	・体調の良し悪しの変調が分からず、無理をしてしまい、体調を崩したり、回復に非常に時間がかかったりする。	・規則正しい生活や衣服の調節の大切さを理解し身に付けることができるようにする。 ・体温を測ることを習慣化し、必要に応じて保護者や教師に対応の相談ができるようにする。 ・毎朝の体調や起床・就寝時間を記録してスケジュール管理をしたり自らの体内の感覚に注目したりなど、自己を客観視できるようにする。
備考	<生活状況の把握> ・覚醒と睡眠のリズム、呼吸機能、体温調節機能 ・食事や水分摂取の時間・回数・量、口腔機能、食物の調理形態、摂取時の姿勢や介助方法 ・排泄の時間帯・回数、排せつ時の姿勢や介助方法、排泄のサイン ・服薬の種類や時間、てんかん発作の状態、発熱、嘔吐、下痢、便秘 等	

2 病気の状態の理解と生活管理に関すること

自分の病気の状態を理解し、その改善を図り、病気の進行の防止に必要な生活様式についての理解を深め、それに基づく生活の自己管理ができるようにすること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
糖尿病	・従来から多い1型とともに、生活習慣と関連する2型が増加している。	・病気の進行を防止するため、血糖値を毎日測定し、病状に応じた対応ができるようにしたり、適切な食生活や適度の運動を行ったりするなどの生活管理を主体的に行うことができるようにする。
二分脊椎	・尿路感染を起こしやすい。	・尿路感染の予防のため、排泄指導、清潔の保持、水分の補給及び定期的な検尿に関することを指導する。 ・長時間同じ座位を取ることによる褥瘡の予防のため、定期的な姿勢変換を行うよう指導する。
進行性疾患	・進行性の疾患のため、生活での自己管理が必要である。	・病気を正しく理解し日々の体調や病状の変化に留意しながら、自身における過度の運動や適度な運動に対する理解を促し、身体機能の低下を予防するよう、生活での自己管理ができるようにする。
精神性の疾患（うつ病など）	・食欲の減退などの身体症状、興味や関心の低下や意欲の減退などの症状が、病気によるものであると理解できない。	・医師の了解を得た上で、病気の仕組みと治療方法を理解し、自らストレスの原因に気付いてその軽減を図ることができるようにする。
口蓋裂	・滲出性中耳炎やむし歯になりやすい。	・日ごろから生徒の聞こえの状態に留意したり、丁寧な歯磨きの習慣形成に努めたりするなど、病気の予防や健康管理を自らできるようにする。
てんかん	・知的障害や発達障害を伴い、生活上の留意事項を理解し守ることや定期的な服薬が難しい。	・絵本や映像資料等を用いて、てんかんについて理解を促したり、過労を避け、ストレスをためないよう、情緒の安定を図ったりする。 ・定時での服薬をすることを、実際の場面で具体的に指導するとともに、周囲の人の理解や協力を得られるよう、自分の病状を適切に伝えることができるようにする。
小児がん	・治療後、自分の病気の状況を理解し、健康状態を維持・改善していくため、自分の生活を自ら管理する力を養う必要がある。	・体調の変化や感染症予防等に留意するなど、病気の予防や適度な運動や睡眠等の健康管理を自らできるようにする。

3 身体各部の状態の理解と養護に関すること

病気や事故等による神経、筋、骨、皮膚等の身体各部の状態を理解し、その部位を適切に保護したり、症状の進行を防止したりできるようにすること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
視覚障害	・視覚管理を適切に行う必要がある。	・発達に応じて、自己の視力や視野などの状態について十分な理解を図る。 ・姿勢に留意したり、危険な場所での対処方法を身に付けたりできるようにする。
聴覚障害	・自ら適切な聞こえの状態を維持できるようにする必要がある。	・発達に応じて、耳の構造や補聴器等の機能について十分な理解を図る。 ・補聴器等を用いる際の留意点について理解を促す。
肢体不自由	・病気や事故等による身体各部の状態を理解し、自分の生活を自己管理できるようにする必要がある。	・下肢切断により義肢を装着している場合、義肢の部分を清潔に保ったり、義肢を適切に管理したりすることができるようにする。
床ずれ		・患部への圧迫が続かないように、定期的に体位を変換することの必要性を理解し、自分で行う方法を工夫したり、自分でできない場合には他の人に依頼したりできるようにする。
筋ジストロフィー	・身体の状態に応じて運動を自己管理したり、心臓機能や呼吸機能の低下を予防したりする必要がある。	・病気の原因や経過、進行の予防、運動の必要性、適度な運動方法や運動量などについて学習し、身体の状態に応じて運動の自己管理ができるようにする。

4 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること

自己の障害にどのような特性があるのか理解し、それらが及ぼす学習上又は生活上の困難についての理解を深め、その状況に応じて自己の行動や感情を調整したり、他者に対して主体的に働きかけたりして、より学習や生活をしやすい環境にしていこう。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
吃音	・吃症状が生じることへの不安感や恐怖感をもち、内面の葛藤を一人で抱えている。	・担当教師との安心した場の中で、吃音について学び、客観的に吃音のことを捉えられるようにする。吃症状の変化に応じた対応の仕方や伝え方を話し合う。
自閉症	・感覚の過敏さやこだわりから、大きな音がしたり、予定通りに物事が進まなかったりすると情緒が不安定になる。	・自分から別の場所に移動したり、音量の調整や予定の説明を他者に依頼したりするなど、自ら刺激の調整を行い、気持ちを落ち着かせることができるようにする。
LD、ADHD	・学習や対人関係が上手くいかないと感じている一方で、自分の長所や短所、得手不得手を客観的に認識することが難しく、自分を否定的に捉えてしまう。	・個別指導や小集団などの指導形態を工夫しながら、対人関係に関する技能を取得するなかで、自分の特性に気付き、自分を認め、生活する上で必要な支援を求められるようにする。
視野の障害	・見える範囲が限られていることにより、周囲の状況把握に困難が生じる。	・自分の見え方の特徴を理解した上で、部屋に置かれた様々なものの位置を自ら触れたり、他者に教えてもらったりしながら確認できるようにする。その際、ものの位置関係が把握しやすいよう、順序よくていねいに確認できるようにする。また、自分に分かりやすいように整理したり、置く場所を決めたりするなど環境を整えるよう促す。
聴覚障害	・補聴器や人工内耳をしていても聴覚活用の状況が個々によって異なる。	・発達段階に応じて、どのような音や声が聞こえて、どのような音や声が聞き取れないのかを自分で理解し、時によって聞こえたり聞こえなかったりすることに気付けるようにする。 ・聴覚活用に加え、手話や筆談など他者とコミュニケーションを図るための様々な方法があることを理解し、自分が分かりやすい方法を選択できるようにする。

5 健康状態の維持・改善に関すること

障害のため、運動量が少なくなったり、体力が低下したりすることを防ぐために日常生活における適切な健康の自己管理ができるようにすること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
重度・重複障害	・健康の状態を明確に訴えることが困難で、たんの吸引等の医療的ケアが必要である。	・健康状態の詳細な観察が必要であり、指導の前後にたんの吸引等の医療的ケアが必要な場合もあることから、養護教諭や看護師等と十分連携を図って指導を進める。 ・身体に触れてもらう活動や軽い運動を行ったり、空気や水、太陽の光などの刺激を皮膚などで受け止めたりすることで、血行を促進したり呼吸機能の向上を図ったりし、健康の維持・改善に努める。
知的障害、自閉症	・運動量が少なく、肥満になったり体力が低下したりする。	・運動への意欲を高めながら、適度な運動を取り入れたり、食生活と健康について実際の生活に即して学習したりし、日常生活において自己の健康管理ができるようにする。
心臓疾患	・運動が制限されていても、その範囲を超えて身体を動かしてしまい病気の状態を悪化させることがある。	・心臓疾患の特徴、治療方法、病気の状態、生活管理などについて、理解できるようにする。自分の健康状態を把握し、その状態に応じて日常生活や学習活動の状態をコントロールしたり、自ら進んで医師に相談したりできるようにする。

第2節 心理的な安定

【自解 P60】

1 情緒の安定に関すること

情緒の安定を図ることが困難な生徒が、安定した情緒の下で生活できるようにすること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
白血病	・治療の副作用により貧血や嘔吐などが長期間続くことにより心理的に不安定になる。	・悩みを打ち明けたり、自分の不安な気持ちを表現できるようにしたりして、心理的な安定を図る。
自閉症	・他者に自分の気持ちを適切な方法で伝えることが難しく、自分をたたいてしまったり、不適切な関わり方をしてしまったりする。	・自分を落ち着かせることができる場所に移動して、慣れた別の活動に取り組むなどしながら、その興奮を静める方法を知ったり、自分の気持ちを伝える手段を身に付けたりできるようにする。
ADHD	・自分の行動を注意されたときに反発して興奮を静められなくなる。	・自分を落ち着かせることができる場所に移動してその興奮を静めることや、一端その場を離れて深呼吸するなどの方法を伝え、それらを実際に行うことができるようにする。
LD	・学習において努力をしても期待したほどの成果が得られなかった経験から、生活全般において自信を失い、失敗して感情的になり、情緒が不安定になる。	・本人が得意なことを生かして課題をやり遂げるように指導し、成功したことを褒めることで自信をもたせたり、自分のよさに気付くことができるようにしたりする。
チック	・不安や緊張が高まった状態になると、身体が動いてしまったり、言葉を発してしまったりする。	・不安や緊張が高まる原因を知り、自ら不安や緊張を和らげる方法を身に付けることができるようにする。
重度・重複障害	・情緒が安定しているかどうかを把握することが困難な場合がある。	・「快」「不快」の表出を読み取り、その気持ちを丁寧を受け止めるようにする。健康状態を常に把握し、安定した状態を保ちながら「快」の感情を引き出すような適切な関わり方を工夫する。
心身症	・心理的に緊張しやすく、不安になりやすい。身体面では、嘔吐、下痢、拒食症等の症状があり、強いストレスを感じて集団への参加が困難になる。	・病気の原因を把握した上で、本人の気持ちを理解しようとする態度で関わるようにする。 ・良好な人間関係作りを目指し、集団構成を工夫した小集団で様々な活動を行ったり、十分にコミュニケーションが取れるようにしたりする。

2 状況の理解と変化への対応に関すること

場所や場面の状況を理解して心理的抵抗を軽減したり、変化する状況を理解して適切に対応したりするなど、行動の仕方を身に付けられるようにすること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
視覚障害	<ul style="list-style-type: none"> 見えない、あるいは見えにくいことから、周囲の状況を即座に把握することが難しいため、初めての環境や周囲の変化に対して、不安になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 目ごろから一定の場所にあるものを目印にして行動する力を身に付けられるようにする。 急激な変化を避けて徐々に環境に慣れるよう配慮する。可能であれば、事前にその環境を確認できるようにするとともに、周囲の状況を説明したり、状況を把握したりするための時間を確保する。 必要に応じて身近な人に尋ねるなど、援助を依頼することができるようにする。
選択性かん黙	<ul style="list-style-type: none"> 家庭などでは支障なく会話できるものの、特定の場所や場面では会話ができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心して参加できる集団構成や活動内容を工夫したり、教師が付き添って適切な援助を行ったりするなどして、情緒の安定を図りながら、それぞれの場面に対応できるようにする。
自閉症	<ul style="list-style-type: none"> 日々の日課と異なる学校行事や急な予定変更などに対応できず混乱したり、不安になったりして、どのように行動したらよいか分からなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 予定されているスケジュールや予想される事態や状況等を分かりやすく伝え、予定表に書いて確かめたり、事前に体験できる機会を設けたりして、見通しをもって取り組めるようにする。

3 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること

自分の障害の状態を理解したり、受容したりして、主体的に障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲の向上を図ること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
筋ジストロフィー	<ul style="list-style-type: none"> 年齢が上がるにつれて歩行が困難になり、車いすや電動車いすの利用や酸素吸入が必要となることが多く、友達の進行を見て、将来の自分の病状を認識している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習や運動において打ち込めることを見つけ、生きがいを感じることができるよう工夫し、少しでも困難を改善・克服しようとする意欲を高めていけるようにする。
肢体不自由	<ul style="list-style-type: none"> 移動に困難さがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 手段を工夫し自分の力で移動ができるようになるなど、障害に伴う不自由を自ら改善し得たという成就感がもてるようにする。
LD	<ul style="list-style-type: none"> 数字の概念や規則性の理解や、計算することに時間がかかったり、文章題の理解や推論することが難しかったりすることで、自分の思う結果が得られず、学習への意欲や関心が低い。 漢字の読みが覚えられない、覚えてもすぐに思い出すことができないなどにより、長文の読解が著しく困難になったり、読書を嫌うために語彙が増えていかなかったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の励ましや期待、賞賛を受けながら、何が必要かを理解し、成功体験を積み重ねることで、自己の特性に応じた方法で学習に取り組めるようにする。 振り仮名を振ることや拡大コピーをすることで読みやすくなること、コンピュータによる読み上げや電子書籍などの代替手段を活用することで読み取りやすくなることを知ることができるようにする。
聴覚障害	<ul style="list-style-type: none"> 音声のみの指示や発話を理解することができず、人と関わることや新しい体験に消極的になってしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身の聞こえにくさにより、人と関わる際にどのような困難が生じるか、新しい体験をする際にどのように行動したり、周囲に働き掛けたりするとよいかを考えたり、体験したりすることを通して、積極的に問題解決に向かう意欲を育てる。
吃音	<ul style="list-style-type: none"> 人とのコミュニケーションに不安感や恐怖感を抱えている場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師との安心できる関係の中で、楽しく話す体験を多くもったり、様々な話し方や読み方を体験したり、自分の得意なことに気付いて自信をもったりすることを通して、吃音を自分なりに受け止め、積極的に学習等に取り組めるようにする。

知的障害	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションがうまくとれず、人と関わることに消極的になったり、受け身的な態度になったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや要求が伝わったり、相手の意図を受け止めたりする双方向のコミュニケーションが成立する成功体験を積み重ね、積極的に関わろうとする意欲を育てる。その上で言語の表出に関することやコミュニケーション手段の選択と活用に関することについて学ぶことができるようにする。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・障害に起因して心理的な安定を図ることが困難な状態にある生徒の場合、同じ障害のある友達同士の自然なかかわりを大切にしたり、社会で活躍している先輩の生き方や考え方を参考にできるようにしたりし、心理的な安定を図り、積極的に行動しようとする態度を育てる。 	

第3節 人間関係の形成

【自解 P67】

1 他者とのかかわりの基礎に関すること

人に対する基本的な信頼感をもち、他者からの働き掛けを受け止め、それに応ずることができるようにすること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
重度・重複障害	<ul style="list-style-type: none"> ・人に対する認識が育っておらず他者からの働き掛けに対する反応が乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が好む関わり（揺れ遊びなど）を継続して行いながら、関わる教師の存在に気付くことができるようにする。 ・身近な人との親密な関係を築き、その人との信頼関係を基盤としながら、周囲の人とのやりとりを広げていくようにする。
自閉症	<ul style="list-style-type: none"> ・他者との関わりをもとうとするが、その方法が十分に身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・直接的に指導を担当する教師を決めるなどして、教師との安定した関係を形成できるようにする。 ・やりとりの方法を大きく変えずに繰り返し指導して定着を図り、相互に関わり合う素地を作る。その上で、やりとりの方法を徐々に増やしていく。その際、言葉だけでなく、具体物や視覚的な情報を加えて分かりやすくする。
視覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の顔が見えない、あるいは見えにくいために、他者との関わりが消極的、受動的になる傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の顔を相手の声の方向に向けるようにしたり、相手との距離を意識して声の大きさを調節したりできるようにする。 ・周囲の状況が変化した場合は、必要に応じて援助を求めるなどの機会を設け、積極的に他者と関わろうとする態度や習慣を養う。

2 他者の意図や感情の理解に関すること

他者の意図や感情を理解し、場に応じた適切な行動をとることができるようにすること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
自閉症	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉や表情、身振りなどを総合的に判断して相手の思いや感情を読み取り、それに応じて行動することが難しい。 ・言葉を字義通りに受け止めてしまうため、行動や表情に表れている相手の真意の読み取りを間違えることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活上の様々な場面を想定し、そこでの相手の言葉や表情などから、相手の立場や相手が考えていることなどを推測するような指導を通して、他者と関わる際の具体的な方法を身に付けることができるようにする。
視覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の表情を視覚的にとらえることが困難なため、相手の意図や感情の変化を読み取ることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚的な手掛かりである相手の声の抑揚や調子の変化などを聞き分けて、話し相手の意図や感情を的確に把握するとともに、その場に応じて適切に行動することができる態度や習慣を養う。
聴覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚的な情報を入手しにくいことから、視覚的な手掛かりだけで判断したり、会話による情報把握が円滑でないため自己中心的にとらえたりしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目の前の状況だけで判断しがちな場合には、そこに至るまでの状況の推移について振り返りながら、順序立てて考える機会を設け、出来事の流れに基づいて総合的に判断する経験を積めるようにする。 ・聴覚活用や読話等の多様なコミュニケーション手段を場面や相手に応じて適切に選択し、会話内容を把握できるようにする。

3 自己の理解と行動の調整に関すること

自分の得意なことや不得意なこと、自分の行動の特徴などを理解し、集団の中で状況に応じた行動ができるようにすること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
知的障害	<ul style="list-style-type: none"> 過去の失敗経験等の積み重ねにより、自分に対する自信がもてず、行動することをためらいがちになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人が容易にできる活動を設定し、成就感を味わうことができるようにし、徐々に自信を回復しながら、自己を肯定的に捉えることができるようにする。
肢体不自由	<ul style="list-style-type: none"> 経験が乏しいことから自分の能力を十分理解できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分でできること、補助的な手段を活用すればできること、他の人に依頼して手伝ってもらうことなどについて、実際の体験を通して理解を促す。
ADHD	<ul style="list-style-type: none"> 衝動の抑制や自己の状態の分析が難しいため、同じ失敗を繰り返したり、目的に沿って行動を調整することが苦手だったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら適切な行動を選択し調整する力を育てることができるよう、自分の行動と出来事との因果関係を図示して理解できるようにしたり、実現可能な目標の立て方や点検表を活用した振り返りの仕方を学べるようにしたりする。
自閉症	<ul style="list-style-type: none"> 他者の意図や感情の理解が十分でないことから、友達の行動に対して適切に応じることが難しい。 特定の音や光などにより混乱し、行動の調整が難しくなることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験的な活動を通して自分の得意なことや不得意なことの理解を促したり、他者の意図や感情を考え、それへの対応方法を身に付けたりできるようにする。 生徒自身の感覚や認知の特性への対応に関する内容とも関連付け、光や音などの刺激の量を調整したり、避けたりするなど対応できるようにする。

4 集団への参加の基礎に関すること

集団の雰囲気に合わせてたり、集団に参加するための手順やきまりを理解したりして、遊びや集団活動などに積極的に参加できるようにすること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
視覚障害	<ul style="list-style-type: none"> 目で見れば分かるようなゲームのルールなどがとらえにくく、集団の中に入っていけない。 	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ集団に参加するための手順やきまり、必要な情報を得るための質問の仕方などを学習し、積極的に参加できるようにする。
聴覚障害	<ul style="list-style-type: none"> 場面や相手によっては、会話等の情報を的確に把握できにくいいため、日常生活で必要なルールや常識等を理解したり、それに基づいて行動したりすることが困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> 会話の背景を想像したり、実際の場面を活用したりして、行動の仕方や相手の受け止め方などを具体的なやりとりを通して学ぶ機会を設定する。
LD	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の意味理解の不足や間違いなどから、友達との会話の背景や経過を類推することが難しいため、集団に積極的に参加することができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的によく使われる友達同士の言い回しや、その意味することが分からないときの尋ね方などを小集団の中で学習できるようにする。
ADHD	<ul style="list-style-type: none"> 説明を聞き漏らしたり、最後まで聞けなかったりするために、ルールを理解しておらず、うまく遊びに参加できない。 勝ちたい気持ちから、ルールを守ることができず、うまく遊びに参加できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ルールを段階的に理解できるようにする。 適切な行動を具体的に学習できるようにする。 遊びへの参加方法が分からないときに、友達に尋ねたり、不安を静めたりする方法を学習できるようにする。

1 保有する感覚の活用に関すること

保有する視覚、聴覚、触覚、嗅覚、固有覚、前庭覚などの感覚を十分に活用できるようにすること。

障害等	指導内容例と留意点
視覚障害	・聴覚や触覚を活用し、弱視であれば保有する視覚を最大限に活用するとともに、その他の感覚も十分に活用して、必要な情報を収集できるようにする。
聴覚障害	・補聴器等の装用により、保有する聴覚を十分に活用できるようにする。 ・場所や場面に応じて、磁気ループを用いた集団補聴システム、FM電波や赤外線を用いた集団補聴システム、FM補聴器等の機器の特徴に応じた活用ができるようにする。
肢体不自由	・自分自身の体位や動きについて、視覚的なイメージを提示したり、分かりやすい言葉で伝えたりして、自分の身体を正しく調整する力を身に付けられるようにする。
重度・重複障害	・視覚、聴覚、触覚と併せて、固有覚や前庭覚の活用も考慮する。それらの感覚がどのように関連しているか、個々の感覚の状態とその活用の仕方を的確に把握した上で、生徒が保有する感覚で受け止めやすいよう、情報の提示の仕方を工夫する。

2 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること

感覚や認知の特性を踏まえ、入ってくる情報を適切に処理できるようにするとともに、自己の感覚の過敏さや認知の偏りなどの特性について理解し、適切に対応できるようにすること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
視覚障害	・屋外だけでなく、屋内でもまぶしさを感じることもある。	・まぶしさを感じる場合、遮光眼鏡を使用したり、その習慣化を図ったりする。 ・室内で見えやすい明るさについて他者に伝えたり、カーテンで明るさを調整したりできるようにする。
自閉症	・特定の音や身体接触、衣類の材質に強い不快感を抱き、感情が急激に変化したり、思考が混乱したりする。 ・不足する感覚を補うため、身体を前後に動かしたり、身体の一部をたたき続けたりして、自己刺激を過剰に得ようとする。	・個々の生徒の刺激の感じ方をきめ細かに観察し把握した上で、不快な音や感触などを自ら避けたり、音が発生する理由や身体接触の意図を知らせるなどして少しずつ慣れていったりできるようにする。 ・自己刺激のための活動と同じような感覚が得られる他の適切な活動に置き換えるなどして、生徒の興味がより外に向かい、広がるようにする。
ADHD	・注意すべき箇所が分からなかったり、注目し続ける時間が短かったり、注目する対象が変動しやすかったりする。	・注目すべき箇所を色分けしたり、手で触れたりなど他の感覚を使い注目しやすくする。その中で、注意を持続させることができることを実感し、自分に合った注意集中の方法を積極的に使用できるようにする。
LD	・文字の判別や文節の把握、書かれた文章の理解や文字を書いて表現することに苦しさがある。	・認知の特性に応じた指導方法を工夫し、自分が理解しやすい学習方法や得意な方法を様々な場面で活用できるようにする。
脳性まひ	・数多く書かれてある文字や図形の中から一つの文字や図形に注目することや、文字や図形を構成する線や角度の関係を理解することが難しい。	・一つの文字や図形だけを取り出して輪郭を強調して見やすくしたり、文字の部首や図形の特徴を話し言葉で説明したりする。 ・コンピュータ等を活用して書くことを補助することによって、学習を効果的に進めることができるようにする。 ・文字の部首や図形の特徴については、話し言葉で聞いた方が理解しやすいなどの自分の得意な学習のスタイルを知り、自ら使えるようにする。
	・上肢にまひがあり、文字や図形を書くことが難しい。	
発達障害等	・体の動かし方にぎこちなさがあり、リコーダーを吹くなどの指先を細かく動かす活動や、水泳などの全身を協調して動かす運動を苦手とする。	・生徒の発達段階を把握した上で、現在できている動作がより確実にできるよう取り組むとともに、指や身体を一つ一つ確かめながらゆっくり動かすようにするなど、発達段階に見合った運動から行うようにする。

3 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること

保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう各種の補助機器を活用できるようにしたり、他の感覚や機器での代行が的確にできるようにしたりすること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
視覚障害	・小さい文字など細かなものや遠くのものを読み取ることが難しい。	・遠用・近用などの各種の弱視レンズや拡大読書器などの視覚補助具、タブレット型端末など効果的に活用できるようにする。
聴覚障害	・補聴器や人工内耳を装用しても音や他者の話を完全に聞き取れない。	・聴覚活用に加えて、視覚を活用した情報収集ができるようにする。その方法としては、手話や指文字、キュード・スピーチ、口形、読話などがあり、それぞれの特徴や機能を理解した上で、個々の障害の状態に応じて聴覚以外の感覚を適切に活用できるようにする。
自閉症	・聴覚に過敏さが見られ、特定の音を嫌がることもある。	・自分の苦手な音を知り、音源を遠ざけたり、音量を調節する器具を利用したりするなど、自分で対処できる方法を身に付けることができるようにする。 ・特定の音が発生する理由や仕組みなどを理解し、徐々に受け入れることができるようにする。

4 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること

いろいろな感覚器官やその補助及び代行手段を総合的に活用して、情報を収集したり、環境の状況を把握したりして、的確な判断や行動ができるようにすること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
視覚障害	・白杖を用いて一人で市街を歩く。	・頭の中に描いた出発点から目的地までの道順と照らし合わせながら、白杖や足元からの情報、周囲の音、太陽の位置などの情報を総合的に活用して、自分のいる場所や進むべき方向などを的確に判断し行動できるようにする。
聴覚障害	・周囲の人とのコミュニケーションの不十分さなどの影響で、物事がどのように推移してきたか、相手がどう思っているか、これから何が始まるかなどについて予想しにくい。	・周囲の状況や人の気持ち、今後の展開等を推察するために、視覚や嗅覚等の様々な感覚を活用して情報を収集したり、多様な手段を活用した積極的なコミュニケーションを通して相手を理解したり、それまでに得ている情報等と照らし合わせたりできるようにする。
知的障害	・自分の身体に対する意識が十分に育っていないため、ものや人にぶつかったり、簡単な動作をまねすることが難しかったりする。	・粗大運動や微細運動を通して、全身及び身体の各部位を意識して動かしたり、身体の各部位の名称やその位置などを言葉で理解したりするなど、自分の身体に対する意識を高めながら、自分の身体を基点とした位置、方向、遠近の概念の形成につなげられるようにする。
LD	・目と手の協応動作が難しく、意図している文字がうまくかけない。	・腕を大きく動かして文字の形をなぞるなど様々な感覚を使って多面的に文字を認識し、自らの動きを具体的に想像してから文字を書くことができるようにする。
肢体不自由	・動く対象物に手を伸ばしてつかむなどの目と手を協応させた活動が難しい。	・頭部を安定させるための補助具を活用したり、前腕で上体を支えやすくする姿勢の保持を工夫したりして、興味のある玩具を注視したり、ゆっくり動く教材などを追視したりする力を高める。 ・見ていた対象物に手を伸ばして、倒したり転がしたりするなかで、物を操作する経験を重ね、目で手の動きを追うような力を付けていく。

5 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

ものの機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるようにすること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
視覚障害	・事物・事象の全体像を捉え、必要な情報を抽出して、的確な概念を形成することが難しい。	・触覚や保有する視覚などを用い、対象物の形や大きさ、手触り、構造、機能等を観察することで、的確な概念を形成し、日常生活における認知や行動の手掛かりとして活用できるようにする。
	・弱視で、全体像が捉えにくく、地図やグラフなどに示されている情報の中から必要な情報を抽出することが難しい。	・ unnecessary情報を削除したり、コントラストを高めたりして認知しやすい教材を用意するとともに、これまで学習してきた知識やイメージを視覚認知に生かせるようにする。
聴覚障害	・言葉と行動を結び付け、その概念を的確に身に付ける必要がある。	・生活の様々な機会を通して言葉と行動を対応させることで、その概念を的確に身に付け、より複雑な事柄の認知や作業に取り組めるようにする。
肢体不自由	・空間における自分と対象の位置関係を理解することが難しい。	・自分の身体の各部位を確認する活動を通して、自分の身体への意識を明確にし、空間概念の形成を図る。
知的障害	・概念形成の過程で、必要な視覚情報に注目することが難しかったり、読み取りや理解に時間がかかったりする。	・興味関心のあることや生活上の場面を取り上げ、実物や写真などを使って見たり読んだり、理解したりすることで、確実に概念の形成につなげていく。
自閉症	・抽象的な表現を理解することが困難なため、指示の内容を具体的に理解することが難しい。	・指示の内容や作業手順、時間の経過等を視覚的に把握できるように教材、教具の工夫を行う。 ・手順表などを活用して、順序や時間、量の概念等を形成できるようにする。
ADHD	・活動に過度に集中してしまい、終了時刻になっても活動を終わることができない。	・活動の流れや時間を視覚的に示し、活動時間の区切りを理解できるようにしたり、残り時間を確認しながら活動の一覧表に優先順位をつけたりして、適切に段取りを整えられるようにする。
LD	・左右の概念を理解することが困難なため、左右の概念を含んだ指示や説明の理解が難しい。	・様々な場面で、見たり触ったりする体験的な活動と「左」や「右」という位置や方向を示す言葉とを関連付け、基礎的な概念の形成を図る。

第5節 身体の動き

【自解 P83】

1 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること

日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図ることなどの基本的技能に関することを習得し、生活の中で適切な動きができるようにすること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
肢体不自由	・基本動作が未習得であったり、間違っ て身に付けていたりするため、生活動作や作業動作を十分に行うことが難しい。	・全身又は身体各部位の筋緊張が強すぎる場合、その緊張を弛めたり、弱すぎる場合には、適度な緊張状態をつくりだしたりすることができるようにする。
		・筋ジストロフィーなど進行性の疾患がある場合、関節拘縮や変形予防のため、適度な運動を行い筋力の維持を図る。
知的障害	・身体の部位を適切に動かしたり、指示を聞いて姿勢を変えたりすることが難しい。	・基本的な動きから取り組み、徐々に複雑な動きができるようにする。次第に目的の動きに近付けて、必要な運動・動作が確実に身に付くようにする。
視覚障害	・身体の動き等を模倣することを通して基本的な運動・動作を学習することが難しい。	・教師の身体や模型に直接触れて確認した後、その姿勢や動きを行うようにする。また、その都度教師が言葉で説明したり、手を添えたりして、正しい姿勢の保持や運動・動作を習得できるようにする。
ADHD	・身体を常に動かしている傾向があり、自分でも気付かない間に座位や立位が大きく崩れ、活動を継続できない。	・身体を動かすことに関する指導だけでなく、姿勢を整えやすいような机やいすを使用したり、姿勢保持のチェックポイントを自分で確認できるようにしたりする。

2 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること

姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、様々な補助用具等の手段を活用してこれらができるようにすること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
肢体不自由、視覚障害等	・座位安定のためのいす、作業能率向上のための机、移動のためのつえ、歩行器、車いす及び白杖等の補助用具を必要とする。	・目的や用途に応じて適切な用具を選び、十分使いこなせるようにする。また、補助用具のセッティングや収納の仕方を身に付けたり、自分に合うように補助用具を調整したりできるようにする。
	・車いすの使用が度重なることにより、立位を保持する能力が低下している。	・身体の動きの維持や習得を妨げないよう、補助用具の使用の仕方を工夫する。
重度・重複障害	・自分で自由に姿勢を変えたり、座位や立位を保持したりすることが困難である。	・座位安定のためのいす等、補助用具を適切に用いて、いろいろな姿勢をとることができるようにする。 ・生徒が積極的に姿勢を保持できるよう、教材・教具や環境の設定を工夫する。

3 日常生活に必要な基本動作に関すること

食事、排泄、衣服の着脱、洗面、入浴などの身辺処理及び、書字、描画等の学習のための基本動作を身に付けることができるようにすること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
重度・重複障害	・運動・動作が極めて困難で、日常生活に必要な基本動作はほとんど援助を受けている。	・援助を受けやすい姿勢や手足の動かし方を身に付けられるようにする。
知的障害	・目と手指の協応動作の困難さや巧緻性、持続性の困難さがあり、衣服の着脱でのボタンはめやはさみなどの道具の操作が難しい。	・生徒が興味や関心がもてる内容や課題を工夫し、使いやすい適切な道具や素材を用意することで、意欲的に活動に取り組めるようにする。その中で、目と手指を協応させて動かししたり、巧緻性や持続性を伸ばしたりできるようにする。その上で、課題の難易度を考慮し、日常生活に必要な基本動作を身に付けていけるようにする。
LD	・鉛筆の握り方がぎこちなく過度に力が入りすぎたり、筆圧が強すぎて行や枠からはみ出まったりなど、手や指先を用いる細かい動きのコントロールが苦手な場合がある。	・使いやすい形や重さの筆記用具や滑り止め付き定規等、本人の使いやすい文具を用いることにより、安心して取り組めるようにした上で、目と手、右手と左手等を協応させながら動かせるようにする。 ・自分の苦手な部分を申し出て、コンピュータによるキーボード入力等で記録することや黒板を写真に撮ること等、ICT機器を用いて書字の代替を行うことができるようにする。

4 身体の移動能力に関すること

自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上を図ること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
視覚障害	・見えない、あるいは見えにくいことから、自力での歩行が難しい。	・伝い歩きやガイド歩行、基本的な白杖の操作技術、他者に援助を依頼する方法などを身に付けて安全に目的地まで行けるようにする。 ・弱視の場合は、保有する視力を十分に活用したり、視覚補助用具を適切に使ったりできるようにする。
心臓疾患	・心臓へ負担がかかることから歩行による移動が制限されるため、必要に応じて歩行器や電動車いす等の補助的手段を活用する必要がある。	・心臓に過度の負担をかけることなく移動の範囲が維持できるよう、医師の指導を踏まえ、病気の状態や移動距離、活動内容によって適切な移動手段を選択し活用できるようにする。
肢体不自由	・筋力が弱く、歩行に必要な緊張が得られない。	・歩行器を用いた歩行を目標に掲げて指導を行ったり、歩行が困難な場合には、車いすによる移動を目標に掲げたりするなど、日常生活に役立つ移動能力を習得できるようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・運動・動作に極めて困難さがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・寝返りや腹這いによる移動だけでなく、基本動作すべての改善及び習得を目指し、姿勢保持や上下肢の基本動作などの指導経過を踏まえて生徒に適した移動の方法を選択できるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすを利用して外出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすの操作に慣れ、目的地まで車いすを操作し続けるための体力を付けることができるようにする。 ・目的地までの距離や段差の状況などを調べ、一人で行けるかどうかを判断し、難しい場合は援助者を探して依頼する力を育む。 ・周囲にいる人に質問したり、依頼したりするコミュニケーションについて習熟できるようにする。

5 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること

作業に必要な基本動作を習得し、その巧緻性や持続性の向上を図るとともに、作業を円滑に遂行する能力を高めること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
肢体不自由	<ul style="list-style-type: none"> ・左右を協調させた上肢操作のぎこちなさのため、ひもをつまんだり交差させたりして結ぶことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指の曲げ伸ばしをしたり、指を対向させたりする基本的な動きに取り組む。必要に応じて片方のひもを押さえておく補助具を活用する。
ADHD	<ul style="list-style-type: none"> ・指先や身体を思ったとおりに動かすことが難しいため、身の回りの片付けや整理整頓等を最後まで行うことが難しい。 ・手足を協調させて動かすことや微細な運動をすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体をリラックスさせる運動やボディイメージを育てる運動に取り組みながら、身の回りの生活動作を身に付けていけるようにする。 ・目的に即して意図的に身体を動かしたり、手足の簡単な動きから段階的に高度な動きに取り組んだりする。 ・手指の巧緻性を高めることができるよう、興味・関心のあることを生かし、道具を使って手指を動かす体験を積むようにする。
自閉症	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のやり方へのこだわりや他者の意図の適切な理解の困難さから、教師が示す手本を模倣しようとする意識がもてない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの作業について、いろいろなやり方があることを体験しながら知ること、一つのやり方へのこだわりを和らげる。 ・教師との良好な人間関係を形成し、教師の示す手本を主体的に模倣しようとする気持ちを育てる。
知的障害	<ul style="list-style-type: none"> ・粗大な運動や動作には問題は見られないが、細かい手先を使った作業を行うことや持続して行うことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味や関心のもてる内容や課題を工夫し、楽しく達成感が得られるような活動に取り組みながら、両手や目と手の協応動作ができるようにする。

第6節 コミュニケーション

【自解 P92】

1 コミュニケーションの基礎的能力に関すること

障害の種類や程度、興味・関心等に応じて、表情や身振り、各種の機器などを用いて意思のやりとりが行えるようにするなど、コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身に付けられるようにすること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
重度・重複障害	<ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉によるコミュニケーションが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が生徒の表情や身振り、しぐさなどを細かく観察することにより、その意図を理解し、双方向のコミュニケーションが成立することを目指す。
聴覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚や音声を活用した意思の相互伝達が成立しにくいと、相手と関わろうとする態度が育ちにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発達段階に応じて、相手を注視する態度や構えを身に付けたり、自然な身振りで表現したり、声を出したりして相手と関わることができるようにする。
自閉症	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のあるものを手にしたい気持ちから、他の人が使っている物を取ろうとする。 ・他の人の手を取り、自分が欲しい物を取ってもらおうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それらの行動は、意思の表出や要求の伝達として現れた行為であると受け止めるとともに、より望ましい方法で意思や要求を伝えることができるようにする。

言語発達の遅れ	<ul style="list-style-type: none"> 語彙が少ないため、自分の考えや気持ちを的確に言葉にできないことや、相手の質問に的確に答えられないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味や関心に応じた教材を活用し、語彙を増やしたり、ことばのやりとりを楽しんだりする。
知的障害	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちや要求を適切に相手に伝えられなかったり、相手の意図が理解できなかったりしてコミュニケーションが成立しにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 実態に応じて、気持ちや要求を伝える手段を広げ、様々な行動をコミュニケーション手段として活用できるようにする。 人とのやりとりや人と協力して行う活動など、認知発達や社会性の育成を促す学習を通して、自分の意図を伝えたり、相手の意図を理解したりして適切な関わりができるようにする。

2 言語の受容と表出に関すること

話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出することができるようにすること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
脳性まひ	<ul style="list-style-type: none"> 内言語や言葉の理解に困難はないが、話し言葉が不明瞭であったり、言葉を伝えるのに時間がかかったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 発語機能の改善を図るとともに、文字の使用や補助的手段の活用を検討して意思の表出を促す。
聴覚障害	<ul style="list-style-type: none"> 視覚と保有する聴覚だけでは、言葉の意味を獲得することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を構成している音節や音韻の構造、文字に関する知識を用いながら、言葉が使われている状況と言葉の意味を結び付けられるようにする。 障害の状態等に合わせて、身振りや手話、指文字、文字等を活用し、生徒が主体的に自分の意思を表出できる機会を設ける。
構音障害	<ul style="list-style-type: none"> 発声・発語器官（口腔器官）の微細な動きを調整する力が低く、正しい発音の習得が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 構音運動を調整する力を高め、正しい発音を定着できるようにする。 音韻意識を育て、音を弁別する力を高めたり、自分の発音をフィードバックできるようにしたりして、正しい発音を定着できるようにする。
自閉症	<ul style="list-style-type: none"> 他者の意図を理解したり、自分の考えを相手に正しく伝えたりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵や写真などの手掛かりを活用しながら相手の話を聞くことや、メモ帳やタブレット型端末等を活用して自分の話したいことを相手に伝えるなど、障害の状態等にに合わせて様々なコミュニケーション手段を用いることができるようにする。
ADHD	<ul style="list-style-type: none"> 行動を調整したり、振り返ったりすることが難しかったり、相手の気持ちを想像した適切な表現方法が身に付いていなかったりすることから、思ったことをそのまま言葉にして相手を不快にさせてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師との個別的な場面や小集団の中で、相手の話を受けてやりとりをする経験を重ねたり、ゲームなどを通して適切な言葉を使用できるようにしたりする。 気持ちをコントロールする力を高めたり、会話をするときのルールやマナーを理解したり、会話中に相手の表情を気にかけていることを学習できるようにする。

3 言語の形成と活用に関すること

コミュニケーションを通して、事物や現象、自己の行動等に対応した言語の概念の形成を図り、体系的な言語を身に付けられるようにすること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
重度・重複障害	<ul style="list-style-type: none"> 話し言葉を用いることができず、限られた音声しか出せない。 	<ul style="list-style-type: none"> 掛け声や擬音・擬声語等を遊びや学習、生活の中に取り入れて、自発的な発声・発語を促すようにする。
聴覚障害	<ul style="list-style-type: none"> 体験したことと言葉を結び付けることが困難になりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体性を尊重しながら、手話や絵、写真などを活用して経験したことを表現し、書くことを整理してから文章で表現できるようにする。
言語発達の遅れ	<ul style="list-style-type: none"> 語彙が少ないため、自分の考えや気持ちを言葉できず、相手の質問にも答えられない。 乳幼児期のコミュニケーションの不足等、言語環境により、言葉でのやりとりが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味・関心に応じた教材を活用したり、生活の中で様々な事物と関連させながら言語化したりして、語彙を増やせるようにする。 安心できる人や場所で言葉遊びを行ったり、作業や体験的な活動を行ったりし、語彙を増やせるようにする。

視覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・一面的な理解で、事物、事象、動作と言葉が結び付いてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に体験ができるような教材・教具を工夫したり、触覚や聴覚、保有する視覚を活用したりして、言葉の意味を正しく理解し、使用できるようにする。
LD	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉は知っているものの、その意味を十分に理解せずに使ったり、意味を十分に理解していないため、思いや考えを正確に伝える語彙が少なかったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実体験、写真や絵と言葉の意味を結び付けながら理解できるようにする。 ・見る力や聞く力を生かし、ICT 機器等を用いて言語概念の形成を図る。

4 コミュニケーション手段の選択と活用に関すること

話し言葉や各種の文字・記号、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択・活用し、他者とのコミュニケーションが円滑にできるようにすること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
言語障害	<ul style="list-style-type: none"> ・音声言語の表出は困難であるが、文字言語の理解ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆談や文字板、ボタンを押すと音声が出る機器、コンピュータ等を使って自分の意思を表出できるようにする。上肢の運動・動作に困難が見られる場合には、下肢や舌、顎の先端等でこれらの機器を操作できるように工夫する。
視覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・点字を常用して学習している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーボードでの入力や点字ディスプレイへの出力に慣れ、コンピュータを操作する技能の習得を図る。
弱視	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大文字の資料を必要とする。 ・進行性の眼疾患等で普通の文字の使用が難しくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって学習効率の良い文字サイズを知り、コンピュータの拡大機能などを使って、読みやすい資料を作成できるようにする。 ・生徒の状態に応じ、適切な時期に点字の使用を開始するなど、学習効率を考えた文字を選択できるようにする。
聴覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲とのより円滑なコミュニケーションを図るための手段を選択したり活用したりすることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発達段階に応じて、音声や手話、指文字、キュード・スピーチ等のコミュニケーション手段から、自分の考えや意思を表しやすいものを状況に応じて主体的に選択し活用できるようにする。 ・体験を通して、コミュニケーション手段を用いることで、人とのやり取りが円滑になることや相手に伝わりやすい手段や伝え方を考える機会を設ける。
視覚と聴覚両方に障害がある	<ul style="list-style-type: none"> ・保有する触覚と聴覚、触覚を活用したコミュニケーション手段の選択と活用が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の状態等により、触覚を活用した触手話、触指文字、指点字等、適切なコミュニケーション手段を選択・活用できるようにする。
知的障害	<ul style="list-style-type: none"> ・対人関係における緊張や記憶の保持などの困難さがあり、適切に意思を伝えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音声出力や文字・写真等、代替手段等を選択し、それらを活用したコミュニケーションができるようにする。
肢体不自由	<ul style="list-style-type: none"> ・上肢操作の制限から、文字を書いたりキーボードで入力したりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字盤の中から自分が伝えたい文字を見ることで入力のできるコンピュータ等の情報機器を活用できるようにする。
進行性の病気	<ul style="list-style-type: none"> ・症状の進行により、言語の表出が難しくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心のケアに留意しながら、コミュニケーション手段について本人と一緒に考え、自己選択・自己決定できる機会を確保しながら活用できるようにする。
自閉症	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉でのコミュニケーションに難しさがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意思を適切に表し、相手に基本的な要求を伝えられるよう、身振り等の表出手段を身に付けたり、話し言葉を補うために絵カードやメモ、タブレット型端末等の機器を活用したりできるようにする。
LD	<ul style="list-style-type: none"> ・読み書きの困難により、文章の理解や表現に時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの読み上げ機能を利用したり、マインドマップのような表現を利用したりすることで、コミュニケーションすることに楽しさと充実感を味わえるようにする。

5 状況に応じたコミュニケーションに関すること

場や相手の状況に応じて、主体的なコミュニケーションを展開できるようにすること。

障害等	具体的な状況	指導内容例と留意点
視覚障害	<ul style="list-style-type: none"> 場に応じた話題の選択や、部屋の広さや状況に応じた声の大きさの調節などに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の声や握手をした際の手の位置から、相手の年齢などを推測し、話を進めることができるようにする。 声の響き方から、部屋の広さや相手との距離を判断して声の大きさを調整できるようにする。
LD	<ul style="list-style-type: none"> 話の内容を記憶して前後関係を比較したり類推したりすることが困難なため、会話の内容や状況に応じた受け答えが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で内容をまとめながら聞く能力を高めるとともに、分からないときに聞き返す方法や相手の表情にも注目する態度を身に付けることができるようにする。
自閉症	<ul style="list-style-type: none"> 会話の内容や周囲の状況を読み取ることが難しく、状況にすぐわない受け答えをしてしまう。 必要なことを伝えたり、相談したりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際の生活場面で、相手の立場に合わせた言葉遣いや場に応じた声の大きさなど、場面にふさわしい表現方法を身に付けることができるようにする。 ホワイトボードを使用して自分の気持ちや考えを書きながら整理する経験を積む。 安心して自分の気持ちを言葉で表現できた経験を重ね、相談することのよさを実感できるようにする。
選択性かん黙	<ul style="list-style-type: none"> 家庭では普通の会話ができるが、学校では話すことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心してできる環境設定や信頼できる人間関係作りを大切にして関わるようにする。 生徒が興味・関心のある事柄について、共感しながら一緒に活動する。 話し言葉以外の手段を活用し、日記や作文などを通して気持ちや意思を交換する機会を設ける。その際、生徒が自信をもち、自己に対して肯定的なイメージを保つことができるようにする。
入院中の生徒	<ul style="list-style-type: none"> 不安を抱えながら生活をしているが、不安の原因が分からなかったり、気持ちを言語化できなかつたりして、周囲の人へ攻撃的になってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 先に入院していた生徒の体験や気持ちの変化等を聞くことを通して、行動や言葉の背景にある不安に気付くようにする。 安心してできる環境での遊びや話し合いなどの中で、不安を言語化できるよう促し、気持ちの安定につなげていけるようにする。

第4章 自立活動の個別の指導計画の作成と内容の取扱い

第1節 個別の指導計画の作成

【自解 P103】

自立活動の指導における個別の指導計画の作成は、個々の生徒の実態把握に基づき、指導すべき課題を整理し、指導目標を明らかにした上で、自立活動の内容の中から必要な項目を選定し、それらを相互に関連付けて具体的な指導内容を設定する。

作成の手順や様式は、各学校が生徒の障害の状態や発達等を考慮し、指導上最も効果が上がるように工夫することが大切である。

第2節 個別の指導計画の作成手順

【自解 P105】

1 実態把握

個々の生徒について、障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習環境などの実態を的確に把握する。その際には、実態把握が十分に行われないと個別の指導計画が作成できないと捉えるのではなく、その時点で把握できた実態や情報に基づいて個別の指導計画を作成し、指導を通して実態把握を更に深化させ、修正していくという柔軟な捉え方が大切である。

ポイント解説

< 実態把握の具体的内容 >

- | | |
|---------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 病気等の有無や状態 | <input type="checkbox"/> 視機能、聴覚機能 |
| <input type="checkbox"/> 生育歴 | <input type="checkbox"/> 知的発達や身体発育の状態 |
| <input type="checkbox"/> 基本的な生活習慣 | <input type="checkbox"/> 興味・関心 |
| <input type="checkbox"/> 人やものとのかかわり | <input type="checkbox"/> 障害の理解に関すること |
| <input type="checkbox"/> 心理的な安定の状態 | <input type="checkbox"/> 学習上の配慮事項や学力 |
| <input type="checkbox"/> コミュニケーションの状態 | <input type="checkbox"/> 特別な施設・設備や補助用具の必要性 |
| <input type="checkbox"/> 対人関係や社会性の発達 | <input type="checkbox"/> 進路 |
| <input type="checkbox"/> 身体機能 | <input type="checkbox"/> 家庭や地域の環境 等 |

※生徒が困難なことのみに視点を置くのではなく、長所や得意としていることも把握する。

2 指導目標の設定

(1) 指導すべき課題相互の関連の検討

実態把握に基づいて得られた指導すべき課題相互の関連を複数の教師で検討し、中心的な課題を抽出する。その際、学校で指導可能な残りの在学期間、数年後や卒業後までに育みたい力など、何に注目して課題の焦点化を行うか、その視点を校内で共有することが必要である。

(2) 指導目標の設定と目標達成に必要な項目の選定

指導目標は、段階的に短期の目標が達成され、やがて長期の目標の達成につながるという展望のもと、長期的及び短期的な観点から設定することが大切である。また、生徒の障害の状態等は変化し得るものであるため、特に長期の目標については、将来の可能性を広い視野から見通して設定するとともに、その後の見通しを予測しながら適切に変更し得よう、弾力的な対応が必要である。

ポイント解説

< 中心的な課題を抽出する意義 >

中心的な課題を抽出した理由を整理して指導の根拠を明確にし、指導担当者間や保護者と共有していくことで、自立活動の指導の妥当性や系統性を確保することができる。

中心的な課題の抽出においては、生徒のもう少しでできること（実現性）やその課題が改善されると他の課題の改善にもつながるもの（関連性）等に注目して整理することが大切である。（参考資料 3 自立活動における指導目標・指導内容設定シート参照）

< 具体的な指導目標 >

- ・ 目標は、具体的に評価しやすいものにする。
- ・ 「生徒が、～できる。」というように、生徒にとっての行動目標とする。

3 具体的な指導内容の設定

(1) 主体的に取り組む指導内容

生徒が自分のなすべきことを意識し、努力の結果、課題が達成できたという成就感を味わうことができるよう、次のような点に配慮しながら指導内容を設定することが必要である。

- ・ 生徒にとって解決可能で、取り組みやすい指導内容にすること。
- ・ 生徒が興味・関心をもって取り組めるような指導内容にすること。
- ・ 生徒が、目標を自覚し、意欲的に取り組んだことが成功に結び付いたということを実感できる指導内容にすること。

(2) 改善・克服の意欲を喚起する指導内容

障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲を高めることができ

るような指導内容を重点的に取り上げる。その際は、単なる座学や抽象的な知識・理解だけでなく、実際的な経験等の具体的な学習活動を通して指導する。

(3) 発達の進んでいる側面を更に伸ばすような指導内容

人間の発達には、諸側面が有機的に関連し合っていることを踏まえ、発達の進んでいる側面を更に促進させることによって、生徒の自信と活動や学習への意欲を喚起し、遅れている側面の伸長や改善に有効に作用することが少なくない。反対に、発達の遅れている側面や改善に必要な障害の状態のみに着目し、これを伸ばしたり、改善したりすることを目指して指導した場合、効果が現れるのに必要以上に時間を要したり、方法によっては生徒の活動への意欲を低下させ、劣等感をもたせたりすることも考えられる。

したがって、生徒の発達の進んでいる側面をさらに伸ばすことによって、発達の遅れている側面を補うことができるような指導内容を取り上げる。

(4) 自ら環境を整える指導内容

生徒が、活動しやすいよう自ら環境を整えたり、必要に応じて周囲の人に支援を求めたりすることができるような指導内容を計画的に取り上げる。

(5) 自己選択・自己決定を促す指導内容

生徒が指導目標を自覚し、改善・克服するための方法等について、自ら選んだり、ものごとを決定して実行したりするような指導内容を取り上げる。

(6) 自立活動を学ぶことの意義について考えさせるような指導内容

自立活動の学習が、将来の自立や社会参加にどのように結び付いていくのか、生徒が自らその関係を理解して学習に取り組むことができるような指導内容を取り上げる。

4 評価

生徒の学習の状況や結果を適切に評価し、個別の指導計画や具体的な指導の改善に生かすよう努める。その際には、次のような点に配慮することが必要である。

- (1) 計画は、当初の仮説に基づいて立てた見通しであるため、学習状況や指導の結果に基づいて、適宜修正を図る。
- (2) 保護者には、学習状況や結果の評価について説明し、成長の様子を確認してもらうとともに、学習で身に付けたことを家庭生活でも発揮できるよう協力を求める。
- (3) 生徒が、障害のある自分を受け止め、困難を改善・克服しようとする意欲をもてるようにするため、実態に応じて自己評価を取り入れる。

第3節 他領域・教科等との関連

【自解 P119】

自立活動の個別の指導計画の作成に当たっては、各教科・科目、総合的な探究の時間及び特別活動〈特別支援学校（知的障害）においては、各教科・道徳科、総合的な探究の時間及び特別活動〉の指導との密接な関連を保つようにし、計画的、組織的に指導が行われるようにする。

第4節 指導方法の創意工夫

【自解 P120】

生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等は多様であるため、個々の生徒の実態に適合した方法を創意工夫することが必要である。

自立活動の指導に適用できるとされる方法や理論として、心理療法、感覚訓練、動作の訓練、運動療法、理学療法、作業療法、言語治療等が想定される。これらの理論・方法は、それぞれの立場から問題の把握やその解決を追求しているものであり、自立活動の指導とい

う観点から成り立っているものではない。そのため、実際の臨床において効果があると評価されていても、それをそのまま自立活動の指導に適用しようとすると、当然無理を生じる。

したがって、特定の指導に有効であると思われる理論や方法については、それを自立活動の指導に適合するように工夫して応用することが大切である。

第5節 自立活動を主とした指導

【自解 P122】

自立活動を主とした指導については、学習指導要領の総則において次のように示されている。

重複障害者のうち、障害の状態により特に必要がある場合には、各教科・科目若しくは特別活動（知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校においては、各教科、道徳科若しくは特別活動。）の目標及び内容の一部又は各教科・科目若しくは総合的な探究の時間（知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校においては、各教科若しくは総合的な探究の時間。）に替えて、自立活動を主として指導を行うことができること。

重複障害者のうち自立活動を主として指導を行うものについては、全人的な発達を促すために必要な基本的な指導内容を、個々の生徒の実態に応じて設定し、系統的な指導が展開できるようにすることが必要である。

評価の際には、各教科等を自立活動に替えることとなった理由との関連に着目し、再度、各教科等の目標及び内容の取扱いについて検証することが大切である。

第6節 教師の協力体制

【自解 P123】

自立活動の指導は、専門的な知識や技能を有する教師を中心として、全教師の協力の下に効果的に行われるようにする。専門的な知識や技能を有する教師とは、特別支援学校の教員の免許状や自立活動を担当する教員の免許状を所有する教師や様々な現職研修や自己研修等によって専門性を高めている教師等である。

複数の障害種別に対応する特別支援学校においては、それぞれの障害種別に対応した専門的な知識や技能を有する教師を学校全体で活用できるようにする必要がある。また、必要に応じて他の特別支援学校との連携協力を図ることも考えられる。

第7節 専門の医師等との連携協力

【自解 P124】

生徒の障害の状態により、必要に応じて、専門の医師及びその他の専門家の指導・助言を求めなどして、適切な指導ができるようにする。

専門家との連携において留意すべきことは、自立活動の指導は教師が責任をもって計画し実施するものであり、そのために、必要に応じて外部の専門家の助言や知見を活用するということである。

第8節 個別の教育支援計画等の活用

【自解 P125】

自立活動の個別の指導計画を作成していく際には、個別の教育支援計画等を活用し、本人、保護者、専門の医師やその他の専門家等と連携協力を図り、生徒の教育的なニーズや長期的な展望に立った指導、支援の方針や方向性等を整理して作成することが重要である。

また、卒業後、自立活動の指導の成果が進路先等での支援に生かされるようにするために、個別の教育支援計画等を十分活用して情報を引き継ぐことも必要である。

參考資料

1 個別の教育支援計画（例）

〇〇年度 個別の教育支援計画
〔支援機関一覧〕

〇〇年4月25日記入

氏名(性)	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇 〇〇 (〇)	生年月日	〇〇年〇月〇日	学校・学年	〇〇立〇〇〇〇学校 第〇学年
保護者氏名	〇〇 〇〇	住所	〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇市 〇〇町 〇〇番地		電話 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇
	就学前	小学校・小学部	中学校・中学部	高等学校・高等部	卒業後
支援窓口	〇〇市 健康課 障害福祉課 学校教育課	〇〇市 健康課 障害福祉課 学校教育課	〇〇市 健康課 障害福祉課 学校教育課	〇〇市 健康課 障害福祉課 生涯学習課	〇〇市 障害福祉課 生涯学習課
母子保健	1歳6ヶ月児健康診査 (〇〇市保健センター) 3歳児健康診査 (〇〇市保健センター) 5歳児(年中児)健康相談 (〇〇市保健センター)	 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">経過観察や療育指導等が指摘された健康診査名等を記入</div>			
医療・福祉	〇〇病院(小児科) 担当: 〇〇〇〇 〇〇市子ども発達センター 発達相談: 〇〇〇〇 (〇歳~ 月1回) 児童発達支援事業 (〇〇〇〇) 療育手帳の申請 (〇〇市福祉事務所)	〇〇病院(小児科) 担当: 〇〇〇〇 療育手帳の再判定申請 (〇〇児童相談所)	〇〇病院(小児科) 担当: 〇〇〇〇 療育手帳の再判定申請 (〇〇児童相談所)	〇〇病院(小児科) 担当: 〇〇〇〇 療育手帳の再判定申請 (〇〇児童相談所)	〇〇病院(神経内科) 担当: 〇〇〇〇 障害基礎年金の給付 (20歳~) (国民年金課) 療育手帳の再判定申請 (リハビリテーションセンター)
教育・保育	〇〇幼稚園 担任3歳: 〇〇〇〇 4歳: 〇〇〇〇 5歳: 〇〇〇〇 〇〇特別支援学校 早期教育相談 (〇歳~ 月1回) 就学時健康診断 (〇〇小学校)	〇〇市立〇〇小学校 担任 1年: 〇〇〇〇 2年: 〇〇〇〇 3年: 〇〇〇〇 4年: 〇〇〇〇 5年: 〇〇〇〇 6年: 〇〇〇〇	〇〇市立〇〇中学校 担任 1年: 〇〇〇〇 2年: 〇〇〇〇 3年: 〇〇〇〇	県立〇〇特別支援学校 担任 1年: 〇〇〇〇 2年: 〇〇〇〇 3年: 〇〇〇〇	卒業後支援 高3担任: 〇〇〇〇 進路指導主事 : 〇〇〇〇 同窓会活動
家庭	新聞運び 父、母、妹、祖父、祖母	食事の配膳 新聞運び 父、母、妹、祖父、祖母	皿洗い 洗濯物たたみ 父、母、妹、祖父、祖母	皿洗い 風呂洗い 父、母、妹、祖父、祖母	皿洗い 部屋の掃除 父、母、妹、祖父、祖母
地域	〇〇の会レクリエーション コンビニエンスストア	P T A地域レクリエーション 〇〇の会宿泊体験 コンビニエンスストア	P T A地域レクリエーション 〇〇の会宿泊体験 コンビニエンスストア レンタルCD・DVD店	コンビニエンスストア レンタルCD・DVD店	県障害者スポーツ協会(N P O法人) コンビニエンスストア レンタルCD・DVD店
労働				産業現場等における実習 2年: 株式会社 〇〇〇〇 3年: 株式会社 〇〇〇〇 障害者就業・生活支援センター〇〇〇〇 担当: 〇〇〇〇 ハローワーク〇〇 担当: 〇〇〇〇	障害者就業・生活支援センター〇〇〇〇 担当: 〇〇〇〇

〇〇年度 個別の教育支援計画

〔個別の指導計画〕

(年 間)

〇〇年4月25日記入

ふりがな	〇〇〇〇 〇〇〇〇	性		学		記入者名	〇〇 〇〇
氏名	〇〇 〇〇	別	〇	級	1年〇組	(所属)	(担任)
診断名等	診断名：知的障害、自閉症 〇〇年〇〇月〇〇日診断 医療機関名：〇〇病院				服薬	有 (無)	
検査結果等	検査名	田中ビネー知能検査V					
	検査結果	IQ 〇〇					
	実施期日	〇〇年〇〇月〇〇日					
	実施機関	〇〇市教育センター					
障害者手帳	身体	有 (無)	級	(年 月 日 交付)			
	療育	有 (無)	A1 A2 B1 (B2)	(〇〇年〇〇月〇〇日 交付・再判定)			
	精神	有 (無)	級	(年 月 日 交付)			
家庭状況	・父、母、本人、妹、祖父、祖母の6人家族。 ・休日は、パソコンを使ってゲームをすることを好む。						
本人及び保護者の願い	[本人] ・作業学習をがんばり、就職できるようにしたい。 ・友達をたくさんつくりたい。 [保護者] ・ルールやマナーを守り、人と上手な関わりができるようになってほしい。						
健康上の配慮等	・特になし						
生活の様子	うまくいっている状況			つまづいている中でもうまくいっている状況			
	学習面	・小学校2年生程度の漢字の読み書きや3位数までの整数の四則計算ができる。 ・パソコンの文字入力をひらがなモードで行ったり、マウスで必要な操作を行ったりすることができる。			・人前で自分の考えを話すことは苦手であるが、事前に話たいことを文章に書いて整理することで話することができる。 ・数学では、文章題の意味を理解し、立式することが苦手だが、具体物や図で視覚的に分かりやすく示すことで立式することができる。		
生活面	・一人で公共交通機関を利用して買い物することができる。 ・モップやほうき等の道具を使用して清掃することができる。			・荷物の整理整頓が苦手なロッカーなどが乱雑になりがちだが、物の置き場所を文字やシールで視覚的に示すことで整理してしまえることができる。 ・不満に感じていることや悩みがある時に、自分から相談できず、不機嫌な態度などで表すことが多いが、教師が丁寧に理由を尋ねると、答えることができるようになってきた。			

目 標	・自分の考えや思いを言葉で表現することができる。
評 価	

(1学期)

教科等	指導目標	指導の手立て	評価
国語	・実習を通して学んだことをまとめ、丁寧な文章で礼状を書くことができる。	・質問形式のワークシートを用意し、実習先で認められたことや改善するよう指摘されたこと、これから頑張りたいこと等を整理してから礼状を書くことができるようにする。	
社会	・公共施設の役割や利用の仕方を知り、分かったことをまとめることができる。	・県庁の見学において、事前に各部署の役割や利用の仕方についてインターネット等を活用して調べ、疑問に思ったことを職員にインタビューする。	
数学	・分数の意味を理解し、簡単な加法・減法をすることができる。	・分数の計算の意味が理解しやすいよう、具体物や図で視覚的に分かりやすく示す。	
理科	・植物のつくりや結実の仕組みについて理解することができる。	・野菜の栽培を通して、おしべとめしべが結実するまでの成長過程を写真に撮り、経過を記録にまとめる。	
音楽	・曲調に合わせて、強弱をつけ、リズムよく和太鼓を打つことができる。	・楽譜に、打つ強さやタイミング等を示すカラーシールを貼り、視覚的に分かりやすくする。	
美術	・水彩絵の具を使って自画像を描くことができる。	・多彩な色彩表現の美術作品を映像や写真等で紹介し、自分の感じた色で自信をもって表現できるようにする。	
保健体育	・友達と協力してサッカーに取り組むことができる。	・映像等を交えて視覚的に分かりやすくルールを説明し、友達の動きや位置を確認して、パスが出せるようにする。	
職業	・様々な職業やその仕事内容について理解することができる。	・身近な先輩の仕事に触れ、インターネット検索や図書を利用して、職種や仕事内容について具体的に調べることができるようにする。	
家庭	・安全にミシンを使い、ぞうきんを縫うことができる。	・縫い合わせる箇所を色付けして、視覚的に分かりやすく示すようにする。	
自立活動	・考えをまとめて自分の言葉で発表することができる。	・テーマを設定し、話す内容を明確にするとともに自分の考えを発表する場面を多く設定する。	

合理的配慮	教育内容・方法	・本生徒の得意なものを学習に取り入れ、主体的に取り組めるようにする。 ・ルールや約束を視覚的に伝える。
	支援体制	・指示は簡潔に伝える。 ・在校中に予想できない大きな音等が鳴った場合、別教室へ誘導し気持ちを落ち着かせる。
	施設・設備	・特になし

支援機関一覧及び指導計画の記載内容について承諾しました。

〇〇年5月10日 保護者名 (〇〇 〇〇)

2 特別支援学校、特別支援学級、通常の学級(通級による指導)の対象となる障害の程度

	特別支援学校	特別支援学級	通常の学級	
			通級による指導	
視覚障害者	両眼の視力がおおむね0.3未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のものうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの	拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が困難な程度のもの	拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が困難な程度のもので、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とするもの	左記に掲げる程度に達しないもの
聴覚障害者	両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上のもので、補聴器等の使用によっても通常の話し声を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの	補聴器等の使用によっても通常の話し声を解することが困難な程度のもの	補聴器等の使用によっても通常の話し声を解することが困難な程度のもので、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とするもの	〃
知的障害者	一 知的発達に遅滞があり、他人との意思疎通が困難で日常生活を営むのに頻りに援助を必要とする程度のもので、 二 知的発達に遅滞の程度が前号に掲げる程度に達しないものうち、社会生活への適応が著しく困難なもの	知的発達に遅滞があり、他人との意思疎通に軽度の困難があり日常生活を営むのに一部援助が必要で、社会生活への適応が困難である程度のもので		〃
肢体不自由者	一 肢体不自由の状態が補装具によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもので、 二 肢体不自由の状態が前号に掲げる程度に達しないものうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもので	補装具によっても歩行や筆記等日常生活における基本的な動作に軽度の困難がある程度のもので	肢体不自由の程度が、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のもので	〃
病弱者	一 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもので、 二 身体虚弱的状態が継続して生活規制を必要とする程度のもので	一 慢性の呼吸器疾患その他疾患の状態が持続的又は間欠的に医療又は生活の管理を必要とする程度のもので、 二 身体虚弱的状態が持続的に生活の管理を必要とする程度のもので	病弱又は身体虚弱的の程度が、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のもので	〃
言語障害者		口蓋裂、構音器官のまひ等器質的又は機能的な構音障害のある者、吃音等話し言葉におけるリズムの障害のある者、話す、聞く等言語機能の基礎的事項に発達の遅れがある者、その他これに準じるもの(これらの障害が主として他の障害に起因するものではない者に限る。)で、その程度が著しいもので	口蓋裂、構音器官のまひ等器質的又は機能的な構音障害のある者、吃音等話し言葉におけるリズムの障害のある者、話す、聞く等言語機能の基礎的事項に発達の遅れがある者、その他これに準じるもの(これらの障害が主として他の障害に起因するものではない者に限る。)で、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のもので	〃
自閉症者		一 自閉症又はそれに類するもので、他人との意思疎通及び対人関係の形成が困難である程度のもので	自閉症又はそれに類するもので、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のもので	〃
情緒障害者		二 主として心理的な要因による選択性かん黙等があるもので、社会生活への適応が困難である程度のもので	主として心理的な要因による選択性かん黙等があるもので、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のもので	〃
学習障害者			全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示すもので、一部特別な指導を必要とする程度のもので	〃
注意欠陥多動性障害者			年齢又は発達に釣り合わない注意力、又は衝動性・多動性が認められ、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすもので、一部特別な指導を必要とする程度のもので	〃
根拠等	学校教育法施行令第22条の3	「障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支援について(通知)」 (平成25年10月4日付け25文科初第756号)		
	参考:「教育支援資料 ~障害のある子供の就学手続と早期からの一貫した支援の充実~」 (平成25年10月 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課)			

3 自立活動における指導目標・指導内容設定シート

(1) 「自立活動における指導目標・指導内容設定シート」について

以下に示すシートは、児童生徒の実態把握から指導目標、具体的な指導内容を設定する際に、手順ごとの要点を踏まえて考えていくためのシートの一例である。各学校の実情に応じて使いやすいう、様式等は整えていくことが大切である。

自立活動における指導目標・指導内容設定シート（例）

学部・学年	学部	年	氏名	診断名	
-------	----	---	----	-----	--

<昨年度末の指導状況>

指導目標	
指導内容	
評価	

1 実態把握

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
○うまくいっているところ(興味・関心、得意なこと等) ●つまづいている中でもうまくいっているところ(支援があればできる等)					
本人・保護者の願い					
3年後目指す姿					

2 中心的な課題の抽出とその理由

つまづきの背景要因		主な観点 ・系統性 ・必要性 ・実現性 ・関連性 ・適時性
中心的な課題		
理由		

3 指導目標の設定

長期目標	
短期目標	

4 目標達成のための必要な内容（項目）の選定

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<input type="checkbox"/> 生活リズムや生活習慣の形成 <input type="checkbox"/> 病気の状態の理解と生活管理 <input type="checkbox"/> 身体各部の状態の理解と養護 <input type="checkbox"/> 障害の特性の理解と生活環境の調整 <input type="checkbox"/> 健康状態の維持・改善	<input type="checkbox"/> 情緒の安定 <input type="checkbox"/> 状況の理解と変化への対応 <input type="checkbox"/> 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	<input type="checkbox"/> 他者とのかかわりの基礎 <input type="checkbox"/> 他者の意図や感情の理解 <input type="checkbox"/> 自己の理解と行動の調整 <input type="checkbox"/> 集団への参加の基礎	<input type="checkbox"/> 保有する感覚の活用 <input type="checkbox"/> 感覚や認知の特性についての理解と対応 <input type="checkbox"/> 感覚の補助及び代行手段の活用 <input type="checkbox"/> 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動 <input type="checkbox"/> 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	<input type="checkbox"/> 姿勢と運動・動作の基本的技能 <input type="checkbox"/> 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 <input type="checkbox"/> 日常生活に必要な基本動作 <input type="checkbox"/> 身体の移動能力 <input type="checkbox"/> 作業に必要な動作と円滑な遂行	<input type="checkbox"/> コミュニケーションの基礎的能力 <input type="checkbox"/> 言語の受容と表出 <input type="checkbox"/> 言語の形成と活用 <input type="checkbox"/> コミュニケーション手段の選択と活用 <input type="checkbox"/> 状況に応じたコミュニケーション

5 具体的な指導内容の設定

指導場面		重視した配慮点 <input type="checkbox"/> 主体的 <input type="checkbox"/> 意欲の喚起 <input type="checkbox"/> 進んだ側面 <input type="checkbox"/> 環境調整 <input type="checkbox"/> 自己選択・自己決定 <input type="checkbox"/> 学習の意味
指導内容と手立て		

(2) 各手順の要点や記入の仕方

学部・学年	学部 年
<昨年度末の指導状況>	
指導目標	
指導内容	
評価	

・指導の継続性や系統性を踏まえるため、前年度一年間の目標の達成状況を記入する。

1 実態把握

健康の保持	心理
〇うまくいっているところ	
本人・保護者の願い	
3年後目指す姿	

・〇うまくいっているところ（既にできていること、興味・関心、得意なこと）
 ・●つまずいている中でもうまくいっているところ（もう少しでできること、支援があればできること）
 ・6区分で児童生徒の全体像を捉えることを意識して、実態の各文末には、該当する区分を記入する。
 ※児童生徒のうまくいっているところやつまずいている中でもうまくいっているところを、指導目標や指導内容を設定する際の手掛かりとする。

・本人や保護者の願いやなりたい姿、切実に困っていることなど聞き取り記入する。
 ・児童生徒の現在の姿から、3年後の生活を踏まえて目指す姿を考え記入する。
 ※中心的な課題を抽出する際や指導目標を設定する際の手掛かりとする。

2 中心的な課題の抽出とその理由

つまずきの背景要因	
中心的な理由	

・様々なつまずきや困難な姿に共通する背景要因を検討し記入する。
 ・主な観点を踏まえ、中心的な課題を抽出し、その理由を記入する。

・昨年度までの指導状況や現在の姿から指導の系統性を踏まえたか。（系統性）
 ・本人や保護者の願い、なりたい姿、切実に困っていることを踏まえたか。（必要性）
 ・もう少しでできることか。（実現性）
 ・つまずきの背景にある共通の要因や他の課題の改善につながるものか。（関連性）
 ・数年後の目指す姿を踏まえ、今、育みたい力か。（適時性）

主な観点	<ul style="list-style-type: none"> ・系統性 ・必要性 ・実現性 ・関連性 ・適時性
------	--

3 指導目標の設定

長期目標	
短期目標	

長期目標
 ・短期目標を段階的に達成した先に予想される1年後に目指す姿を設定する。
 ・適宜見直し、適切に変更するなど弾力的に対応する。
短期目標
 ・「〇〇の場面で、〇〇を使い、〇〇できる」など具体的に設定する。
 ・1学期間程度で達成可能な目標とする。

4 目標達成のための必要項目の把握

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<input type="checkbox"/> 生活リズムや生活習慣の形成 <input type="checkbox"/> 病気の状態の理解と生活管理 <input type="checkbox"/> 身体各部の状態の理解と養護 <input type="checkbox"/> 障害の特性の理解と生活環境の調整 <input type="checkbox"/> 健康状態の維持・改善	<input type="checkbox"/> 情緒の安定 <input type="checkbox"/> 状況の理解と変化への対応 <input type="checkbox"/> 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	<input type="checkbox"/> 他者とのかかわりの基礎 <input type="checkbox"/> 他者の意図や感情の理解 <input type="checkbox"/> 集団への基礎	<input type="checkbox"/> 保有する感覚の活用 <input type="checkbox"/> 感覚や認知の特	<input type="checkbox"/> 姿勢と運動・動作の基本的技能 <input type="checkbox"/> 姿勢保持と運動・	<input type="checkbox"/> コミュニケーションの基礎的能力 <input type="checkbox"/> 言語の受容と表
		<input type="checkbox"/> 活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動 <input type="checkbox"/> 認知や行動の手掛かりを把握	<input type="checkbox"/> 作業に必要な動作と円滑な遂行	<input type="checkbox"/> 状況に応じたコミュニケーションと活用	

・目標達成のために必要な項目を選定し項目にチェック（☑）を入れる。それらに関連付けて具体的な指導内容を設定する。

・教育活動全体の中で、自立活動の時間や各教科等を合わせた指導などから、具体的な指導場面を設定し記入する。

5 具体的な指導内容の設定

指導場面	
------	--

・次の点に配慮し指導内容を設定する。重視した配慮点にチェック（☑）を入れる。
主体的：興味をもって主体的に取り組み、成就感を味わい、自己を肯定的に捉えられる
意欲の喚起：改善・克服しようとする意欲を高める
進んだ側面：発達の進んでいる側面をさらに伸ばす
環境調整：自ら環境を整えたり、必要に応じて周囲に支援を求めたりできる
自己選択・自己決定：自ら選んだり、ものごとを決定して実行したりする機会を設ける
学習の意味：学習の意味が将来の自立や社会参加との関係で分かる

重視し配慮点	<input type="checkbox"/> 主体的 <input type="checkbox"/> 意欲の喚起 <input type="checkbox"/> 進んだ側面 <input type="checkbox"/> 環境調整 <input type="checkbox"/> 自己選択・自己決定 <input type="checkbox"/> 学習の意味
--------	---

(3) 記入例 知的障害のある B さん（高等部 2 学年）の場合

学年	高等部 2 学年	生徒氏名	B さん	診断名	知的障害
----	----------	------	------	-----	------

＜昨年度末の指導状況＞

指導目標	・ 経験したことを整理して相手に分かりやすく伝えることができる。
指導内容	・ その日学習した内容や経験したことを出来事の順序に整理して話す。
評価	・ 経験したことを順序立てて分かりやすく話すことができた。

1 実態把握

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<p>○うまくいっているところ(興味・関心、得意なこと等)●つまづいている中でもうまくいっているところ(支援があればできる等)</p> <p>○作業学習の得意な工程や体育の授業等では、周りの状況を把握し、周囲に声を掛けて協力して取り組むことができる。(人、コ)</p> <p>○興味関心のあるアニメやお笑い番組などの話題で、身近な友達や教師との会話を楽しむことができる。(人、コ)</p> <p>○就労に対する意欲が高く、作業学習や産業現場等における実習に意欲的に取り組むことができる。(心)</p> <p>●不満に感じていることや悩みがある時に、自分から相談できず、不機嫌な態度などで表すことが多いが、信頼できる教師が丁寧に理由を尋ねると、答えることができるようになってきた。(心、人、コ)</p> <p>●友達に間違いを指摘されたり教師に注意を受けたりした際に乱暴な言動が見られることがあるが、教師が時間をかけて話を聞きながら、その時の状況や生徒の思いなどを文字や図に示して整理すると、納得することができる。(心、人、コ)</p>					
本人・保護者の願い	・ 卒業後は就職して自立した生活を送りたい。				
3年後の目指す姿	・ 職場で良好な人間関係を築き、意欲的に仕事に取り組んでいる。				

2 中心的な課題の抽出とその理由

つまづきの背景要因	・ 自分の思いや考えを話して「分かってもらえた」と感じた経験が少ないために、自分から言葉で伝えようとするのをあきらめてしまいがちなのではない。	主な観点 ・ 系統性 ・ 必要性 ・ 適時性 ・ 実現性 ・ 関連性
中心的な課題	・ 様々な状況で、自分の思いや考えなどを言葉で伝えようすることができる。	
理由	・ 経験したことについて事実を分かりやすく伝えることはできている。 ・ 就労するためには、仕事上のミスや自身の悩みなどについて言葉で伝える力や指摘されたことを素直に聞く態度が必要である。 ・ 納得できない状況では感情的になることもあるが、教師の助言を受け入れることができつつある。 ・ 自分が伝えたい内容が相手に伝わる経験を積むことで、どんな困難な状況でも自分の気持ちや考えを周囲の人に伝えようすることができるようになる。	

3 指導目標の設定

長期目標	・ 様々な場面で思いや考えを自分から教師に言葉で伝えることができる。
短期目標	・ 話し合う活動において、自分の考えを積極的に言葉で伝えることができる。

4 目標達成のために必要な内容(項目)の選定

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<input type="checkbox"/> 生活リズムや生活習慣の形成 <input type="checkbox"/> 病気の状態の理解と生活管理 <input type="checkbox"/> 身体各部の状態の理解と養護 <input type="checkbox"/> 障害の特性の理解と生活環境の調整 <input type="checkbox"/> 健康状態の維持・改善	<input type="checkbox"/> 情緒の安定 <input type="checkbox"/> 状況の理解と変化への対応 ■ 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	<input type="checkbox"/> 他者とのかかわりの基礎 <input type="checkbox"/> 他者の意図や感情の理解 ■ 自己の理解と行動の調整 <input type="checkbox"/> 集団への参加の基礎	<input type="checkbox"/> 保有する感覚の活用 <input type="checkbox"/> 感覚や認知の特性についての理解と対応 <input type="checkbox"/> 感覚の補助及び代行手段の活用 <input type="checkbox"/> 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動 <input type="checkbox"/> 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	<input type="checkbox"/> 姿勢と運動・動作の基本的技能 <input type="checkbox"/> 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 <input type="checkbox"/> 日常生活に必要な基本動作 <input type="checkbox"/> 身体の移動能力 <input type="checkbox"/> 作業に必要な動作と円滑な遂行	<input type="checkbox"/> コミュニケーションの基礎的能力 <input type="checkbox"/> 言語の受容と表出 <input type="checkbox"/> 言語の形成と活用 <input type="checkbox"/> コミュニケーション手段の選択と活用 ■ 状況に応じたコミュニケーション

5 具体的な指導内容の設定

指導場面	作業学習、生活単元学習、日常生活の指導の時間等	重視した配慮点 ☑主体的 <input type="checkbox"/> 意欲の喚起 <input type="checkbox"/> 進んだ側面 <input type="checkbox"/> 環境調整 ☑自己選択・自己決定 ☑学習の意味
指導内容と手立て	・ 得意な学習活動を中心に、生徒同士で自分の考えを述べたり、相手の意見の良いところを認め合ったりする場面を設定する。教師も生徒それぞれの意見のよいところを具体的に伝えることで、お互いの意見のよいところに気付けるように配慮する。他者から認められる経験を通して、自己を肯定的に捉え、自信を持って発言できるようにする。 ・ ホワイトボード等を活用し、他の生徒の意見を視覚的に分かりやすく示すことで、参考にしたり比較したりできるようにする。	
各教科等との関連	・ 「なぜなら」「例えば」などの表現を用いながら、自分の考えとそれを支える理由や事例といった関係性が明確になる文章を書く。(国語科)	

国語 【内容】（思考・判断・表現）

内 容		小学部			中学部		高等部		
		1 段階	2 段階	3 段階	1 段階	2 段階	1 段階	2 段階	
思考・判断・表現	聞くこと・話すこと	内容の把握	・教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。 ・身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。	・身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結びつけたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすること。 ・簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすること。	絵本の読み聞かせなどを通して、出来事など話の大体を聞き取ること。	身近な人の話や簡単な放送などを聞き、聞いたことを書き留めたり分からないことを聞き返したりして、話の大体を捉えること。	身近な人の話や放送などを聞きながら、聞いたことを簡単に書き留めたり、分からないときは聞き返したりして、内容の大体を捉えること。	社会の中で関わる人の話などを、話し手が伝えたいことの中に注意して聞き、話の内容を捉えること。	社会の中で関わる人の話などについて、話し手の目的や自分が聞きたいことの中に注意して聞き、その内容を捉えること。
		話題の設定と内容の検討	伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。	体験したことなどについて、伝えたいことを考えること。	経験したことを思い浮かべ、伝えたいことを考えること。	話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めること。	相手や目的に応じて、自分の伝えたいことを明確にすること。	目的に応じて、話題を決め、集めた材料を比較するなど伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	目的や意図に応じて、話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合う内容を検討すること。
		構成の検討	—	—	見聞きしたことのあらましや自分の気持ちなどについて思い付いたり、考えたりすること。	見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などについて、内容の大体が伝わるように伝える順序等を考えること。	見聞きしたことや経験したこと、自分の意見やその理由について、内容の大体が伝わるように伝える順序や伝え方を考えること。	話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。	話の内容が明確になるように、話の構成を考えること。
		表現	—	挨拶をしたり、簡単な台詞などを表現したりすること。	・挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使うこと。 ・相手に伝わるよう、発音や声の大きさに気を付けること。	自己紹介や電話の受け答えなど、相手や目的に応じた話し方で話すこと。	相手に伝わるように発音や声の大きさ、速さに気を付けて話したり、必要な話し方を工夫したりすること。	相手に伝わるように、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。
		話合い	—	—	相手の話に関心をもち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすること。	相手の話に関心をもち、分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもつこと。	物事を決めるために、簡単な役割や進め方によって話し合い、考えをまとめること。	目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。	互いの立場や意図を明確にしなが、計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。
	書くこと	題材の設定・情報の収集・内容の検討	身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。	経験したことのうち身近なことについて、写真などを手掛かりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。	身近で見聞きしたり、経験したりしたことについて書きたいことを見付け、その題材に必要な事柄を集めること。	見聞きしたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめること。	相手や目的を意識して、見聞きしたことや経験したことの中から書くことを選び、伝えたいことを明確にすること。	相手や目的を意識して、書くことを決め、集めた材料を比較するなど、伝えたいことを明確にすること。	目的や意図に応じて、書くことを決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。
		構成の検討	—	—	見聞きしたり、経験したりしたことの中から、伝えたい事柄の順序を考えること。	相手に伝わるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	書く内容の中心を決め、自分の考えと理由などの関係を明確にして、文章の構成を考えること。	書く内容の中心を決め、内容のまとまりで段落をつくり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成を考えること。
		記述	文字に興味をもち、書こうとすること。	自分の名前や物の名前を文字で表すことができることを知り、簡単な平仮名をなぞったり、書いたりすること。	見聞きしたり、経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書くこと。	文の構成、語句の使い方に気を付けて書くこと。	事実と自分の考えとの違いなどが相手に伝わるように書き表し方を工夫すること。	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
		推敲	—	—	書いた語句や文を読み、間違いを正すこと。	自分が書いたものを読み返し、間違いを正すこと。	文章を読み返す習慣を身に付け、間違いを正したり、語と語との続き方を確かめたりすること。	間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えること。	文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。
		共有	—	—	文などに対して感じたことを伝えること。	文章に対する感想をもち、伝え合うこと。	文章に対する感想を伝え合い、内容や表現のよいところを見付けること。	書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。	文章全体の構成が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。
	読むこと	内容の把握	教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付く、注目すること。	教師と一緒に絵本などを見て、登場するものや動作などを思い浮かべること。	絵本や易しい読み物などを読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像すること。	簡単な文や文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること。	様々な読み物を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること。	登場人物の行動や心情などについて、叙述を基に捉えること。	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。
		構造の把握	絵本などを見て、知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること。	教師と一緒に絵本などを見て、時間の経過などの大体を捉えること。	絵本や易しい読み物などを読み、時間的な順序など内容の大体を捉えること。	語や語句の意味を基に時間的な順序や事柄の順序など内容の大体を捉えること。	語と語や文と文との関係を基に、出来事の順序や気持ちの変化など内容の大体を捉えること。	段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。
		精査・解釈	絵や矢印などの記号で表された意味に応じ、行動すること。	日常生活でよく使われている表示などの特徴に気付き、読もうとしたり、表された意味に応じた行動をしたりすること。	日常生活に必要な語句や文、看板などを読み、必要な物を選んだり行動したりすること。	日常生活に必要な語句や文章などを読み、行動すること。	日常生活や社会生活、職業生活に必要な語句、文章、表示などの意味を読み取り、行動すること。	登場人物の心情や情景について、場面と結び付けて具体的に想像すること。	人物像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。
		考えの形成	絵本などを見て、次の場面を楽しみにしたり、登場人物の動きなどを模倣したりすること。	絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりすること。	登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすること。	文章を読んで分かったことを伝えたり、感想をもったりすること。	読んで感じたことや分かったことを伝え合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

国語 【内容】（知識・技能）

内 容		学部・段階		小学部			中学部		高等部	
		1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階		
知識・技能	言葉の特徴や使い方	言葉の働き	身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。	身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じる。	身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付く。	身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付く。	日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付く。	社会生活に係る人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付く。	社会生活に係る人とのやり取りを通して、言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付く。	
		話し言葉と書き言葉	—	—	姿勢や口形に気を付けて話すこと。	発音や声の大きさに気を付けて話すこと。	発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。	相手を見て話したり聞いたりするとともに、間の取り方などに注意して話すこと。	話し言葉と書き言葉に違いがあることに気付くこと。	
		語彙	言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。	言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付く。	言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付く。	理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、使える範囲を広げること。	表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には、性質や役割による語句のまとまりがあることを理解すること。	表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすること。	
		文・文章	—	—	文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知る。	主語と述語との関係や接続する語句の役割を理解すること。	修飾と被修飾との関係、指示する語句の役割について理解すること。	接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。	文と文との接続の関係、話や文章の構成や種類について理解すること。	
		言葉遣い	—	—	—	普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。	敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くこと。	日常よく使われる敬語を理解し使うこと。	日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。	
		音読	—	—	正しい姿勢で音読すること。	語のまとまりに気を付けて音読すること。	内容の大体を意識しながら音読すること。	文章の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。	文章を音読したり、朗読したりすること。	
		情報と情報との関係	—	—	物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。	事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。	考えとそれを支える理由など、情報と情報との関係について理解すること。	考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など、情報と情報との関係について理解すること。	原因と結果など、情報と情報との関係について理解すること。	
	情報の扱い方	情報の整理	—	—	図書を用いた調べ方を理解し使うこと。	—	必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使うこと。	比較や分類の仕方、辞書や事典の使い方などを理解し使うこと。	情報と情報との関係付けの仕方を理解し使うこと。	
		伝統的な言語文化	昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。	昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いた、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。	自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	—	親しみやすい古文などの文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	
	我が国の言語文化	書き	・いろいろな筆記用具に触れ、書くことを知る。 ・筆記用具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知る。	・いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむこと。 ・写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。	・目的に合った筆記用具を選び、書くこと。 ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。	・姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 ・点画相互の接し方や交わり方、長さや方向などに注意して文字を書くこと。	・点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 ・漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。	文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。	・用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めて書くこと。 ・目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。	
		読書	読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。	読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつこと。	読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知る。	読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知る。	幅広く読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知る。	幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付く。	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付く。	

社会【内容】

学部・段階		1段階		2段階		1段階		2段階			
内容		中学部				高等部					
工 産業と生活	我が国の産業	知識・技能	仕事と生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	県内の特色ある地域に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	我が国の農業や水産業における食料生産に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	我が国の工業生産に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	生産の事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることが分かること。	地域では、人々が協力し、産業の発展に努めていることを理解すること。	①我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解すること。 ②食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解すること。	①我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解すること。 ②工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解すること。	
		思考・判断・表現	仕事の種類や工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現すること。	人々の活動や産業の歴史的背景などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。	①生産物の種類や分布、生産量の変化などに着目して、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。 ②生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。	①工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、工業生産の概要を捉え、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。 ②製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。					
	産業と生活	知識・技能	身近な産業と生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	生活を支える事業に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	水道、電気及びガスなどの生活を支える事業は、安全で安定的に供給や処理できるよう実施されていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解すること。	我が国の産業と情報との関わりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	知識・技能	販売の仕事は、消費者のことを考え、工夫して行われていることが分かること。	供給や処理の仕組みや関係機関の協力などに着目して、水道、電気及びガスなどの生活を支える事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、表現すること。	—	大量の情報や情報通信技術の活用は様々な産業を進展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。
		思考・判断・表現	消費者の願いや他地域との関わりなどに着目して、販売の仕事に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現すること。	—	—	情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。					
		—	—	—	—						
	オ 我が国の国土の様子と国民生活、 歴史	我が国の国土の様子と国民生活	知識・技能	身近な地域や市区町村(以下「市」という。)の様子に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身近な地域に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	我が国の国土の様子と国民生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	知識・技能	身近な地域や自分たちの市の様子が見られる。	自分たちの県の概要を理解すること。	我が国の国土の地形や気候の概要を理解するとともに、人々は自然環境に適応して生活していることを理解すること。	世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解すること。
思考・判断・表現			都道府県(以下「県」という。)内における市の位置や市の地形、土地利用などに着目して、身近な地域や市の様子を見られる違いを考え、表現すること。	我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形などに着目して、県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現すること。	地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること。						
歴史上の主な事象		知識・技能	身近な地域の移り変わりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身近な地域や自分たちの市の様子、人々の生活は、時間とともに移り変わってきたことを知る。	県内の伝統や文化、先人の働きや出来事に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	我が国の歴史上の主な事象に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	思考・判断・表現	交通や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。	歴史的背景や現在に至る経緯などに着目し、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。	我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、関連する先人の業績、優れた文化遺産などを理解すること。	我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、世の中の様子の変化を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。
		思考・判断・表現	—	—	—	世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、世の中の様子の変化を考え、表現すること。					
カ 外国の様子	グローバル化する世界と日本の役割	知識・技能	世界の中の日本と国際交流に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	文化や風習の特徴や違いを知る。	文化や風習の特徴や違いを理解すること。	知識・技能	文化や風習の特徴や違いを知る。	そこに暮らす人々の生活などに着目して、日本との違いを考え、表現すること。	人々の生活や習慣などに着目して、多様な文化について考え、表現すること。	異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解すること。	我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解すること。
		思考・判断・表現	—	—	—	外国の人々の生活の様子などに着目して、日本の文化や習慣との違いについて考え、表現すること。					
	世界の地域	知識・技能	—	世界の様々な地域に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	人々の生活の様子を大まかに理解すること。	—	思考・判断・表現	—	—	—	地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現すること。

社会【内容】

内容		学部・段階		中学部		高等部					
		1段階		2段階		1段階		2段階			
ア 社会参加ときまり	社会生活	知識・技能	社会参加するために必要な集団生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	知識・技能	学級や学校の中で、自分の意見を述べたり相手の意見を聞いたりするなど、集団生活の中で役割を果たすための知識や技能を身に付けること。	知識・技能	学級や学校の中で、意見を述べ合い、助け合い、協力しながら生活する必要性を理解し、そのための知識や技能を身に付けること。	知識・技能	地域の人々と互いに協力することの大切さを理解し、自分の役割や責任を果たすための知識や技能を身に付けること。	知識・技能	社会の中で互いに協力しながら、社会生活に必要な知識や技能を身に付けること。
		思考・判断・表現	集団生活の中で何が必要かに気づき、自分の役割を考え、表現すること。	思考・判断・表現	周囲の状況を判断し、集団生活の中での自分の役割と責任について考え、表現すること。	思考・判断・表現	社会生活の中で状況を的確に判断し、自分の役割と責任について考え、表現すること。	思考・判断・表現	社会生活の中で状況を的確に判断し、国民としての権利及び義務、それに伴う責任について考え、表現すること。		
	法やきまり	知識・技能	社会生活に必要なきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	知識・技能	家庭や学校でのきまりを知り、生活の中でそれを守ることの大切さが分かること。	知識・技能	家庭や学校、地域社会でのきまりは、社会生活を送るために必要であることを理解すること。	知識・技能	社会生活を営む上で大切な法やきまりがあることを理解すること。	知識・技能	社会の慣習、生活に関係の深い法やきまりを理解すること。
		思考・判断・表現	社会生活ときまりとの関連を考え、表現すること。	思考・判断・表現	社会生活に必要なきまりの意義について考え、表現すること。	思考・判断・表現	社会生活を営む上で大切な法やきまりの意義と自分との関わりについて考え、表現すること。	思考・判断・表現	社会生活を営む上で大切な法やきまりの意義と自分との関わりについて考え、表現すること。		
イ 公共施設の役割と制度	公共施設の役割	知識・技能	公共施設の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	知識・技能	身近な公共施設や公共物の役割が分かること。	知識・技能	自分の生活の中での公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。	知識・技能	生活に関係の深い公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。	知識・技能	地域における公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。
		思考・判断・表現	公共施設や公共物について調べ、それらの役割を考え、表現すること。	思考・判断・表現	公共施設や公共物の役割について調べ、生活の中での利用を考え、表現すること。	思考・判断・表現	生活に関係の深い公共施設や公共物の利用の仕方を調べ、適切な活用を考え、表現すること。	思考・判断・表現	地域における公共施設や公共物の利用の仕方を調べ、適切な活用を考え、表現すること。		
	制度の仕組み	知識・技能	制度の仕組みに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	知識・技能	身近な生活に関する制度が分かること。	知識・技能	社会に関する基本的な制度について理解すること。	知識・技能	我が国の政治の基本的な仕組みや働きについて理解すること。	知識・技能	生活に関係の深い制度について理解すること。
		思考・判断・表現	身近な生活に関する制度について調べ、自分との関わりを考え、表現すること。	思考・判断・表現	社会に関する基本的な制度について調べ、それらの意味を考え、表現すること。	思考・判断・表現	国や地方公共団体の政治の取組について調べ、国民生活における政治の働きを考え、表現すること。	思考・判断・表現	生活に関係の深い制度について調べ、その活用を考え、表現すること。		
ウ 我が国の国土の自然環境と国民生活	自然環境と国民生活	知識・技能	地域の安全に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	知識・技能	地域の安全を守るため、関係機関が地域の人々と協力していることが分かること。	知識・技能	地域の関係機関や人々は、過去に発生した地域の自然災害や事故に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。	知識・技能	①自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害が国土と国民生活に影響を及ぼすことを理解すること。 ②関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解するとともに、公害が国土の環境や国民の生活に影響を及ぼすことを理解すること。	知識・技能	自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること。
		思考・判断・表現	地域における災害や事故に対する施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、そこに携わる人々の働きを考え、表現すること。	思考・判断・表現	過去に発生した地域の自然災害や事故、関係機関の協力などに着目して、危険から人々を守る活動と働きを考え、表現すること。	思考・判断・表現	①災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること。 ②公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、公害防止の取り組みを捉え、その働きを考え、表現すること。	思考・判断・表現	国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考え、表現すること。		

算数/数学【内容】(A数量の基礎、A数と計算)

学級・段階		小学部			中学部		高等部		
内容	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階		
								A数量の基礎	
A数量の基礎	具体物に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・具体物に気付いて指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。 ・目の前で隠されたものを探したり、身近にあるものや人の名を聞いて指を差したりすること。	—	—	—	—	—	—		
		・対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、諸感覚を協働させながら捉えること。	—	—	—	—	—	—	
		ものともを対応させることに関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・ものともを対応させて配ること。 ・分割した絵カードを組み合わせることで、関連の深い絵カードを組み合わせることで。	—	—	—	—	—	—	
A数と計算	数えることの基礎に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・ものの有無に気付くこと。 ・目の前のものを、1個、2個、たくさんで表すこと。 ・5までの範囲で数唱をすること。 ・3までの範囲で具体物を取ることで、対応させてものを配ること。 ・形や色、位置が変わっても、数は変わらないことについて気付くこと。	10までの数の数え方や表し方、構成に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・ものともを対応させることによって、ものの個数を比べ、同等・多少が分かること。 ・ものの集まりと対応して、数詞が分かること。 ・ものの集まりや数詞と対応して数字が分かること。 ・個数を正しく数えたり書き表したりすること。 ・二つの数を比べて数の大小が分かること。 ・数の系列が分かり、順序や位置を表すのに数を用いること。 ・0の意味について分かること。 ・一つの数を二つの数に分けたり、二つの数を一つの数にまとめたりして表すこと。 ・具体的な事物を加えたり、減らしたりしながら、集合数を一つの数と他の数と関係付けてみることで、10の補数が分かること。	100までの整数の表し方に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・20までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の大小を比べたりすること。 ・100までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の系列を理解したりすること。 ・数える対象を2ずつや5ずつのまとまりで数えること。 ・数を10のまとまりとして数えたり、10のまとまりと端数に分けて数えたり書き表したりすること。 ・具体物を分配したり等分したりすること。	整数の表し方に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・1000までの数をいくつかの同じまとまりに分割したうえで数えたり、分類して数えたりすること。 ・3位数の表し方について理解すること。 ・数を十や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解すること。 ・3位数の数系列、順序、大小について、数直線の上目盛りを読んで理解したり、数を表したりすること。 ・一つの数をほかの数の積としてみるなど、ほかの数と関係付けてみることで。	整数の表し方に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・4位数までの十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について、理解すること。 ・10倍、100倍、1/10の大きさの数及びその表し方について知ることで、数の相対的な大きさについて理解を深めること。	整数の性質及び整数の構成に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・万の単位を知ること。 ・10倍、100倍、1000倍、1/10の大きさの数及びその表し方の理解を深めること。 ・億、兆の単位について知り、十進位取り記数法についての理解を深めること。	整数の性質及び整数の構成に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・整数は、観点を決めると偶数と奇数に類別されることを理解すること。 ・約数、倍数について理解すること。		
		・数詞とものとの関係に注目し、数のまとまりや数え方に気付き、それらを学習や生活で生かすこと。	・数詞と数字、ものとの関係に注目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすこと。	・数のまとまりに着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活で生かすこと。	・数のまとまりに着目し、考察する範囲を広げながら数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活で生かすこと。	・数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を統合的に捉えたとともに、それらを日常生活に生かすこと。	・乗法及び除法に着目し、観点を決めて整数を類別する仕方を考えたり、数の構成について考察したりするとともに、日常生活に生かすこと。		
		概数に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・概数が用いられる場面について知ることで、四捨五入について知ることで、目的に応じて四則計算の結果の見積りをすること。 ・日常の事象における場面に着目し、目的に合った数の処理の仕方を考えたとともに、それを日常生活に生かすこと。	—	—	—	—	—	—	—
A数と計算	加減法	整数の加法及び減法に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・加法が用いられる合併や増加等の場合について理解すること。 ・加法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。 ・1位数と1位数との加法の計算ができること。 ・1位数と2位数との和が20までの加法の計算ができること。 ・減法が用いられる求残や減少等の場合について理解すること。 ・減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。 ・20までの数の範囲で減法の計算ができること。	整数の加法及び減法に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・2位数の加法及び減法について理解し、その計算ができること。また、それらの筆算の仕方について知ることで、簡単な場合について3位数の加法及び減法の計算の仕方を知ること。 ・加法及び減法に関して成り立つ性質について理解すること。 ・計算機を使って、具体的な生活場面における簡単な加法及び減法の計算ができること。	整数の加法及び減法に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方について理解し、計算ができること。また、それらの筆算についての仕方を知ること。 ・加法及び減法に関して成り立つ性質を理解すること。 ・計算機を使って、具体的な生活場面における加法及び減法の計算ができること。	整数の加法及び減法に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・大きな数の加法及び減法の計算が、2位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。 ・加法及び減法の計算が確実にでき、それらを適切に用いること。	整数の加法及び減法に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり、計算の確かめをしたりすること。	整数の加法及び減法に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり、計算の確かめをしたりすること。		
		・日常の事象における数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を見付け出したり、学習や生活で生かしたりすること。	・数量の関係に着目し、数を適用する範囲を広げ、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。	・数量の関係に着目し、数の適用範囲を広げ、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。	・数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり、計算の確かめをしたりすること。	整数の乗法に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・乗法が用いられる場面や意味について知ることで、乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。 ・乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解すること。 ・乗法九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算ができること。	整数の乗法に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。 ・乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。 ・乗法に関して成り立つ性質について理解すること。	整数の乗法に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・2位数と1位数との乗法の計算ができ、それを適切に用いること。 ・交換法則や分配法則といった乗法に関して成り立つ性質を理解すること。	整数の乗法に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり、計算の確かめをしたりすること。
		乗法	—	—	—	—	—	—	—

算数/数学【内容】（A数と計算）

学部・段階	小学部			中学部		高等部			
	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階		
A数と計算	除法	—	—	—	—	整数の除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	整数の除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—	
		知識・技能	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 除法が用いられる場合や意味について理解すること。 除法が用いられる場面を式に表したり、読み取ったりすること。 除法と乗法との関係について理解すること。 除数と商が共に1位数である除法の計算ができること。 余りについて知り、余りの求め方が分かること。 	<ul style="list-style-type: none"> 除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算が、基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。 除法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。 除法について、次の関係を理解すること。 (被除数) = (除数) × (商) + (余り) 除法に関して成り立つ性質について理解すること。 	—	
		態度・規範・表現	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活に生かすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり、計算の確かめをしったりすること。 	—	
		知識・技能	—	—	—	—	小数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	整数及び小数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—
		態度・規範・表現	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 端数部分の大きさを表すのに小数を用いることを知ること。 1/10の位までの小数の仕組みや表し方について理解すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ある数の10倍、100倍、1000倍、1/10、1/100などの大きさの数を、小数点の位置を移してつくること。 	—	
		態度・規範・表現	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 数のまとまりに着目し、数の表し方の適用範囲を広げ、日常生活に生かすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 数の表し方の仕組みに着目し、数の相対的な大きさを考察し、計算などに有効に生かすこと。 	—	
	小数	知識・技能	—	—	—	—	小数とその計算に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	<ul style="list-style-type: none"> ある量の何倍かを表すのに小数を用いることを知ること。 小数が整数と同じ仕組みで表わされていることを知るとともに、数の相対的な大きさについての理解を深めること。 小数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができること。 乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の計算ができること。 	—
		態度・規範・表現	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、計算の仕方を考えとともに、それを日常生活に生かすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、計算の仕方を考えとともに、それを日常生活に生かすこと。 	—	
		知識・技能	—	—	—	—	—	小数の乗法及び除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—
		態度・規範・表現	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 乗数や除数が小数である場合の小数の乗法及び除法の意味について理解すること。 小数の乗法及び除法の計算ができること。 余りの大きさについて理解すること。 小数の乗法及び除法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 乗数や除数が小数である場合の小数の乗法及び除法の意味について理解すること。 小数の乗法及び除法の計算ができること。 余りの大きさについて理解すること。 小数の乗法及び除法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。 	—
		知識・技能	—	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 乗法及び除法の意味に着目し、乗数や除数が小数である場合まで数の範囲を広げて乗法及び除法の意味を捉え直すとともに、それらの計算の仕方を考えたり、それらを日常生活に生かしたりすること。 	—
		態度・規範・表現	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 分数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 分数とその計算に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 分数に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
分数	知識・技能	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 1/2、1/4など簡単な分数について知ること。 	<ul style="list-style-type: none"> 等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いることについて理解すること。また、分数の表し方について知ること。 分数が単位分数の幾つ分かで表すことができることを知ること。 簡単な場合について、分数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができることを知ること。 簡単な場合について、大きさの等しい分数があることを知ること。 同分母の分数の加法及び減法の計算ができること。 	<ul style="list-style-type: none"> 整数及び小数を分数の形に直したり、分数を小数で表わしたりすること。 整数の除法の結果は、分数を用いると常に一つの数として表すことができることを理解すること。 一つの分数の分子及び分母に同じ数を乗除してできる分数は、元の分数と同じ大きさを表すことを理解すること。 分数の相等及び大小について知り、大小を比べること。 		
	態度・規範・表現	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 数のまとまりに着目し、数の表し方の適用範囲を広げ、日常生活に生かすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 数のまとまりに着目し、分数でも数の大きさを比べたり、計算したりできるかどうかを考えるとともに、分数を日常生活に生かすこと。 数を構成する単位に着目し、大きさの等しい分数を探したり、計算の仕方を考えたりするとともに、それを日常生活に生かすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 数を構成する単位に着目し、数の相等及び大小関係について考察すること。 分数の表現に着目し、除法の結果の表し方を振り返り、分数の意味をまとめること。 		
	知識・技能	—	—	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 分数の加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 	
	態度・規範・表現	—	—	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 異分母の分数の加法及び減法の計算ができること。 	
	知識・技能	—	—	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 分数の意味や表現に着目し、計算の仕方を考えること。 	
	態度・規範・表現	—	—	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 分数の乗法及び除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 	
数量の関係	知識・技能	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 	—	
	態度・規範・表現	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 数量の関係を式に表したり、式と図を関連付けたりすること。 □などを用いて数量の関係を式に表すことができることを知ること。 □などに数を当てはめて調べること。 	<ul style="list-style-type: none"> 四則の混合した式や()を用いた式について理解し、正しく計算すること。 公式についての考え方を理解し、公式を用いること。 数量を□、△などを用いて表し、その関係を式に表したり、□、△などに数を当てはめて調べたりすること。 数量の関係を表す式についての理解を深めること。 	<ul style="list-style-type: none"> 数量を表す言葉や□、△などの代わりに、a、xなどの文字を用いて式に表わしたり、文字に数を当てはめて調べたりすること。 	
	知識・技能	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 数量の関係を着目し、事柄や関係を式や図を用いて簡潔に表したり、式と図を関連付けて式を読んだりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面の数量の関係を着目し、数量の関係を簡潔に、また一般的に表現したり、式の意味を読み取ったりすること。 二つの数量の対応や変わり方に着目し、簡単な式で表わされている関係について考察すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面の数量の関係を着目し、数量の関係を簡潔かつ一般的に表現したり、式の意味を読み取ったりすること。 	
	態度・規範・表現	—	—	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 計算に関して成り立つ性質に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 	
	知識・技能	—	—	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 四則に関して成り立つ性質についての理解を深めること。 	
	態度・規範・表現	—	—	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質を用いて計算の仕方を考えること。 	

算数/数学【内容】(B図形)

学部・段階	小学部			中学部		学部・段階	高等部		
	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階		1段階	2段階	
B図形	分類	知識・技能	ものの類別や分類・整理に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・具体物に注目して指を差したり、つかもうしたり、目で通ったりすること。 ・形を視覚的に区別すること。 ・形が同じものを選ぶこと。 ・似ている二つのものを結び付けること。 ・関連の深い一対のものや絵カードを組み合わせること。 ・同じもの同士の集合づくりをすること。	ものの分類に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・色や形、大きさに着目して分類すること。 ・身近なものを目的、用途及び機能に着目して分類すること。	-	-	-	-	-
		思考・判断・表現	・対象物に注意を向け、対象物の存在に気付き、諸感覚を協応させながら具体物を捉えること。 ・ものの属性に着目し、様々な情報から同質なものや類似したものに気付き、日常生活の中で関心をもつこと。 ・ものともとの関係に注意を向け、ものの属性に気付き、関心をもって対応しながら、表現する仕方を見つけ出し、日常生活で生かすこと。	・ものを色や形、大きさ、目的、用途及び機能に着目し、共通点や相違点について考えて、分類する方法を日常生活で生かすこと。	-	-	-	-	-
		性質	-	身の回りにあるものの形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・身の回りにあるものの形に関心をもち、丸や三角、四角という名称を知ること。 ・縦や横の線、十字、△や□をかくこと。 ・大きさや色など属性の異なるものであっても形の属性に着目して、分類したり、集めたりすること。	・身の回りにあるものの特徴を捉えること。 ・具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。 ・前後、左右、上下など方向や位置に関する言葉を用いて、ものの位置を表すこと。	図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・直線について知ること。 ・三角形や四角形について知ること。 ・正方形、長方形及び直角三角形について知ること。 ・正方形や長方形で捉えられる箱の形をしたものについて理解し、それらを構成したり、分解したりすること。 ・直角、頂点、辺及び面という用語を用いて図形の性質を表現すること。 ・基本的な図形が分かり、その図形をいかたり、簡単な図表を作ったりすること。 ・正方形、長方形及び直角三角形をいかたり、作ったり、それらを使って平面に敷き詰めたりすること。	・二等辺三角形、正三角形などについて知り、作図などを通してそれらの関係に着目すること。 ・二等辺三角形や正三角形を定規とコンパスなどを用いて作図すること。 ・基本的な図形と関連して角について知ること。 ・直線の平行や垂直の関係について理解すること。 ・円について、中心、半径及び直径を知ること。また、円に関連して、球についても直径などを知ること。	平面図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・平行四辺形、ひし形、台形について知ること。 ・図形の形や大きさが決まる要素について理解するとともに、図形の合同について理解すること。 ・三角形や四角形など多角形についての簡単な性質を理解すること。 ・円と関連させて正多角形の基本的な性質を知ること。 ・円周率の意味について理解し、それを用いること。	・縮図や拡大図について理解すること。 ・対称な図形について理解すること。
	性質	知識・技能	-	・身の回りにあるものから、いろいろな形を見付けたり、具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。 ・身の回りにあるものの形を図形として捉えること。 ・身の回りにあるものの形の観察などをして、ものの形を認識したり、形の特徴を捉えたりすること。	・図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を見いだすとともに、図形の性質を見いだし、身の回りのものを図形として捉えること。	・図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方等を考察して、図形の性質を見いだすとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直すこと。	・図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方等を考察して、図形の性質を見いだすとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直すこと。	・図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方等を考察したり、図形の性質を見いだしたりするとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直し、日常生活に生かしたりすること。	
		思考・判断・表現	-	-	-	-	-	-	
		位置	-	-	-	-	-	-	-
	面積	知識・技能	-	-	-	-	-	-	-
		思考・判断・表現	-	-	-	-	-	-	-
		知識・技能	-	-	-	-	-	-	-
	角の大きさ	知識・技能	-	-	-	-	-	-	-
		思考・判断・表現	-	-	-	-	-	-	-
		知識・技能	-	-	-	-	-	-	-

算数/数学【内容】（C測定、C変化と関係、Dデータの活用）

学部・段階		小学部			中学部		学部・段階		高等部			
内容	C測定	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	内容	1段階	2段階			
		量・測定	身の回りにおける具体物の大きさに関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身の回りにおける具体物の大きさに関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身の回りにおける具体物の大きさに関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身の回りにおける具体物の大きさに関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		身の回りにおける具体物の大きさに関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。				
	知識・技能	・大きさや長さなどを、基準に対して同じか違うかによって区別すること。 ・ある・ない、大きい・小さい、多い・少ないなどの用語に注目して表現すること。	・長さ、重さ、高さ及び広さなどの量の大きさを比較すること。 ・二つの量の大きさについて、一方を基準にして相対的に比べること。 ・長い・短い、重い・軽い、高い・低い及び広い・狭いなどの用語が分かること。	・長さ、広さ、かさなどの量を直接比べる方法について理解し、比較すること。 ・身の回りにおけるものの大きさを単位として、その幾分かて大きさを比較すること。	・目盛の原点を対象の端に当てて測定すること。 ・長さの単位 [mm, cm, m, km] や重さの単位 [g, kg] について知り、測定の意味を理解すること。 ・かさの単位 [mL, dL, L] について知り、測定の意味を理解すること。 ・長さ、重さ及びかさについて、およその見当を付け、単位を選択したり、計器を用いて測定したりすること。							
	思考・判断・表現	・大小や多少等で区別することに関心をもち、量の大きさを表す用語に注目して表現すること。	・長さ、重さ、高さ及び広さなどの量を、一方を基準にして比べることに関心をもち、量の大きさを用語を用いて表現したりすること。	・身の回りのものの長さ、広さ及びかさについて、その単位に着目して大小を比較したり、表現したりすること。	・身の回りのものの特徴に着目し、目的に適した単位で量の大きさを表現したり、比べたりすること。							
	時刻・時間			時刻や時間に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	時刻や時間に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。							
	知識・技能			・日常生活の中で時刻を読むこと。 ・時間の単位（日、午前、午後、時、分）について知り、それらの関係を理解すること。	・時間の単位（秒）について知ること。 ・日常生活に必要な時刻や時間を求めること。							
	思考・判断・表現			・時刻の読み方を日常生活に生かして、時刻と生活を結び付けて表現すること。	・時間の単位に着目し、簡単な時刻や時間の求め方を日常生活に生かすこと。							
C変化と関係	二つの数量関係				伴って変わる二つの数量に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		比と反比例		伴って変わる二つの数量に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。			
		知識・技能			・変化の様子を表や式を用いて表したり、変化の特徴を読み取ったりすること。			知識・技能	・簡単な場合について、比例の関係があることを知ること。 ・比例の意味や性質を理解すること。 ・比例の関係をを用いた問題解決の方法について理解すること。			
					伴って変わる二つの数量の関係を着目し、表や式を用いて変化の特徴を考察すること。		思考・判断・表現	伴って変わる二つの数量を見出して、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察すること。	・伴って変わる二つの数量を見出して、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いてそれらの関係を表現して、変化や対応の特徴を見いだすとともに、それらを日常生活に生かすこと。			
	割合					二つの数量の割合に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		比と割合		二つの量の数量の割合に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
		知識・技能				・簡単な場合について、ある二つの数量の割合と別の二つの数量の割合とを比べる場合に割合を用いる場合があることを知ること。			知識・技能	・ある二つの数量の割合と別の二つの数量の割合とを比べる場合に割合を用いる場合があることを理解すること。 ・百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めること。		
						・日常生活における数量の割合に着目し、図や式を用いて二つの数量の割合を考察すること。			思考・判断・表現	・日常の事象における数量の割合に着目し、図形や式などを用いて、ある二つの数量の割合と別の二つの数量の割合との比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。	・比の意味や表し方を理解し、数量の割合を比で表わしたり、等しい比をつくらうこと。	
知識・技能					・日常生活における数量の割合に着目し、図や式を用いて二つの数量の割合を考察すること。		知識・技能		・速さなどの単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し、それらを求めること。			
	思考・判断・表現				異種の二つの量の割合として捉えられる数量に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		思考・判断・表現	・日常の事象における数量の割合に着目し、図や式などを用いて数量の割合の比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。				
Dデータの活用	分類				身の回りにおける事象を簡単な絵や図、記号に置き換えることに関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		収集と分析		データの収集とその分析に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。			
		知識・技能				・身近なものを目的、用途、機能に着目して分類すること。 ・ものともとの対応やものの個数について、簡単な絵や図に表して整理したり、それらを読み取りすること。 ・身の回りにおけるデータを簡単な記号に置き換えて表し、比較して読み取ること。			知識・技能	・数量の割合を割合で捉え、円グラフや棒グラフで表わしたり、読み取りすること。 ・円グラフや棒グラフの意味やそれらの用い方を理解すること。 ・データの収集や適切な手法の選択など統計的な問題解決の方法を知ること。		
					・個数の把握や比較のために簡単な絵や図、記号に置き換えて簡潔に表現すること。			思考・判断・表現	・目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して読み取り、その結論について多面的に捉え考察すること。	・目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について批判的に考察すること。		
	同等・多少					同等と多少に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。			Dデータの活用		測定した結果を平均する方法に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
		知識・技能				・ものともとの対応させることによって、もの同等や多少が分かること。				知識・技能	・平均の意味や求め方を理解すること。	・起こりうる場合に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
						・身の回りにおけるものの個数に着目して絵グラフなどに表し、多少を読み取って表現すること。				思考・判断・表現	・概括的に捉えることに着目し、測定した結果を平均する方法について考察し、それを学習や日常生活に生かすこと。	・起こり得る場合を順序よく整理するための図や表などの用い方を理解すること。
知識・技能					○×を用いた表に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。							
表・グラフ					身の回りにおける出来事から○×を用いた簡単な表を作成すること。 ・簡単な表で使用する○×の記号の意味が分かること。							
	知識・技能				・身の回りの出来事から○×を用いた簡単な表を作成すること。 ・簡単な表で使用する○×の記号の意味が分かること。							
	思考・判断・表現				身の回りの出来事を見え、○×を用いた簡単な表で表現すること。							
	知識・技能				身の回りにおけるデータを簡単な表やグラフで表したり、読み取ったりすることに関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。							
	知識・技能				・身の回りにおけるデータを簡単な表やグラフで表したり、読み取ったりすること。 ・データを日時や場所などの観点から分類及び整理し、表や棒グラフで表したり、読み取りすること。 ・データを二つの観点から分類及び整理し、折れ線グラフで表したり、読み取ったりすること。 ・表や棒グラフ、折れ線グラフの意味やその用い方を理解すること。							
	思考・判断・表現				身の回りの事象に関するデータを整理する観点に着目し、簡単な表やグラフを用いながら読み取ったり、考察したり、結論を表現したりすること。							
	知識・技能				・身の回りの事象に関するデータを整理する観点に着目し、表や棒グラフを用いながら、読み取ったり、考察したり、結論を表現したりすること。 ・目的に応じてデータを集めて分類及び整理し、データの特徴や傾向を見つけて、適切なグラフを用いて表現したり、考察したりすること。							

理科【内容】

学級・段階	内容	中学部		高等部		
		1段階	2段階	1段階	2段階	
A	生命	生物の種と機能	身の回りの生物について、探したり育てたりする中で、生物の姿に着目して、それらと比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	人や他の動物について、骨や筋肉のつくりと働きに着目して、それらに関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—	人や他の動物について、体のつくりと呼吸、消化、排出及び循環の働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・生物は、色、形、大きさなど、姿に違いがあること。 ・昆虫や植物の育ち方には一定の順序があること。	次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・人の体には、骨と筋肉があること。 ・人が体を動かすことができるのは、骨、筋肉の働きによること。	—	次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・体内に酸素が取り入れられ、体外に二酸化炭素などが出されていること。 ・食べ物は、口、胃、腸などを通る間に消化、吸収され、吸収されなかった物は排出されること。 ・血液は、心臓の働きで体内を巡り、養分、酸素及び二酸化炭素などを運んでいること。 ・体内には、生命活動を維持するための様々な臓器があること。
		身の回りの生物について調べる中で、差異点や共通点に気づき、生物の姿についての疑問をもち、表現すること。	人や他の動物の骨や筋肉のつくりと働きについて調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。	—	人や他の動物の体のつくりと働きについて調べる中で、体のつくりと呼吸、消化、排出及び循環の働きについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。	
		—	—	—	植物について、その体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
		—	—	—	次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・植物の葉に日光が当たるとでんぷんができること。 ・根、茎及び葉には、水の通り道があり、根から吸い上げられた水は主に葉から蒸散により排出されること。	
		—	—	—	植物の体のつくりと働きについて調べる中で、体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。	
	生命の連続性	動物の発生や成長について、魚を育てたり人の発生についての資料を活用したりする中で、卵や胎児の様子に着目して、時間の経過と関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—	動物の発生や成長について調べる中で、動物の発生や成長の様子と経過についての予想や仮説を基に、解決の方法を考え、表現すること。	—	—
		—	—	—	—	—
		—	—	—	植物の育ち方について、発芽、成長及び結実の様子に着目して、それらに関わる条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—
		—	—	—	次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・植物は、種子の中の養分を基にして発芽すること。 ・植物の発芽には、水、空気及び温度が関係していること。 ・植物の成長には、日光や肥料などが関係していること。 ・花にはおしべやめしべなどがあり、花粉がめしべの先に付くためしべのものが実になり、実の中に種子ができること。	—
		—	—	—	植物の育ち方について調べる中で、植物の発芽、成長及び結実とそれらに関わる条件についての予想や仮説を基に、解決の方法を考え、表現すること。	—
		—	—	—	—	—
生物と環境の関わり	身近な動物や植物について、探したり育てたりする中で、動物の活動や植物の成長と季節の変化に着目して、それらに関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—	生物と環境について、動物や植物の生活を観察したり資料を活用したりする中で、生物と環境との関わりに着目して、それらを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—	—	
	—	—	—	—	—	
B	地球の内部と地表面の変動	—	雨水の行方と地面の様子について、流れ方やしみ込み方に着目して、それらと地面の傾きや土の粒の大きさを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	流れる水の動きと土地の変化について、水の速さや量に着目して、それらの条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	土地のつくりと変化について、土地やその中に含まれる物に着目して、土地のつくりやでき方を多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
		—	次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・水は、高い場所から低い場所に流れて集まること。 ・水のしみ込み方は、土の粒の大きさによって違いがあること。	次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・流れる水には、土地を浸食したり、石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあること。 ・川の上流と下流によって川原の石の大きさや形に違いがあること。 ・雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により土地の様子が大きく変化する可能性があること。	次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・土地は、礫、砂、泥、火山灰などからできており、層をつくって広がっているものがあること。また、層には化石が含まれているものがあること。 ・地層は流れる水の動きや火山の噴火によってできること。 ・土地は、火山の噴火や地震によって変化する。	
	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	
地球の大気・水の循環	太陽と地面の様子との関係について、日なたと日陰の様子に着目して、それらと比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—	天気や自然界の水の様子について、気温や水の行方に着目して、それらと天気の様子や水の状態変化とを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	天気の变化の仕方について、雲の様子を観察したり、映像などの気象情報を活用したりする中で、雲の量や動きに着目して、それらと天気の变化とを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—	
	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	
地球と天体の運動	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	

理科【内容】

内容	学部・段階		中学部		高等部	
	1段階	2段階	1段階	2段階	1段階	2段階
物質 (粒子)	物の性質について、形や体積に着目して、重さを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	水や空気の性質について、体積や状態の変化に着目して、それらと温度の変化とを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	物の溶け方について、溶ける量や様子に着目して、水の温度や量などの条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	水溶液について、溶けている物に着目して、それらによる水溶液の性質や違いを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
	<ul style="list-style-type: none"> 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・物は、形が変わっても重さは変わらないこと。 ・物は、体積が同じでも重さは違うことがあること。 	<ul style="list-style-type: none"> 次ことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・水や空気は、温めたり冷やしたりすると、その体積が変わること。 ・水は、温度によって水蒸気や水に変わること。 	<ul style="list-style-type: none"> 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・物が水に溶けても、水と物を合わせた重さは変わらないこと。 ・物が水に溶ける量には、限度があること。 ・物が水に溶ける量は水の温度や量、溶ける物によって違うこと。また、この性質を利用して、溶けている物を取り出すことができること。 	<ul style="list-style-type: none"> 次ことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・水溶液には、酸性、アルカリ性及び中性のものがあること。 ・水溶液には、期待が溶けているものがあること。 ・水溶液には金属を変化させるものがあること。 		
	物の形や体積と重さとの関係について調べる中で、差異点や共通点に気づき、物の性質についての疑問をもち、表現すること。	水や空気の体積や状態の変化について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。	物の溶け方について調べる中で、物の溶け方の規則性についての予想や仮説を基に、解決の方法を考え、表現すること。	水溶液の性質や働きについて調べる中で、溶けているものによる性質や働きの違いについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。		
	—	—	—	—		
物質・エネルギー	電気の回路について、乾電池と豆電球などのつなぎ方と、乾電池につないだ物の様子に着目して、電気を通すときと通さないときのつなぎ方を比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—	電流の働きについて、電流の大きさや向きと乾電池につないだ物の様子に着目して、それらと関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	発電や蓄電、電気の変換について、電気の量や働きに着目して、それらを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
	<ul style="list-style-type: none"> 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方があること。 ・電気を通すものと通さないものがあること。 	—	<ul style="list-style-type: none"> 次ことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・乾電池の数やつなぎ方を変えると、電流の大きさや向きが変わり、豆電球の明るさやモーターの回り方が変わること。 	<ul style="list-style-type: none"> 次ことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・電気は、つくりだしたり蓄えたりすることができること。 ・電気は、光、音、熱、運動などに変換することができること。 ・身の回りには、電気の性質や働きを利用した道具があること。 		
	乾電池や豆電球などをつないだときの様子について調べる中で、差異点や共通点に気づき、電気の回路についての疑問をもち、表現すること。	—	電流の働きについて調べる中で、電流の大きさや向きと乾電池につないだ物の様子との関係についての予想や仮説を基に解決の方法を考え、表現すること。	電気の性質や働きについて調べる中で、電気の量と働きとの関係、発電や蓄電、電気の変換について、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。		
	—	—	—	—		
エネルギー	風やゴムの力の働きについて、力と物の動く様子に着目して、それら比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—	—	この規則性について、力を加える位置や力の大きさに着目してこの動きを多面的に調べる活動を通して次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
	<ul style="list-style-type: none"> 次ことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・風の力は、物を動かすことができること。また、風の力の大きさを変えると、物が動く様子も変わること。 ・ゴムの力は、物を動かすことができること。また、ゴムの力の大きさを変えると、物が動く様子も変わること。 	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 次ことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・力を加える位置や力の大きさを変えると、てこを傾ける動きが変わり、てこがつり合うときにはそれらの間に規則性があること。 ・身の回りには、この規則性を利用した道具があること。 		
	風やゴムの力で物が動く様子について調べる中で、差異点や共通点に気づき、風やゴムの力の働きについての疑問をもち、表現すること。	—	—	この規則性について調べる中で、力を加える位置や力の大きさとてこの動きの関係について、より妥当な考えをつくりだし表現すること。		
	—	—	—	—		
エネルギー	光や音の性質について、光を当てたときの明るさや暖かさ、音を出したときの震え方に着目して、光の強さや音の大きさを変えたときの違いを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—	—	—		
	<ul style="list-style-type: none"> 次ことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・日光は直進すること。 ・物に日光を当てると、物の明るさや暖かさが変わる。 ・物から音が出たり伝わったりするとき、物は震えていること。 	—	—	—		
	光を当てたときの明るさや暖かさの様子、音を出したときの震え方の様子について調べる中で、差異点や共通点に気づき、光や音の性質についての疑問をもち、表現すること。	—	—	—		
	—	—	—	—		
エネルギー	磁石の性質について、磁石を身の回りの物に近付けたときの様子に着目して、それらを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—	—	—		
	<ul style="list-style-type: none"> 次ことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・磁石に引き付けられる物と引き付けられない物があること。 ・磁石の異極は引き合い、同極は退け合うこと。 	—	—	—		
磁石を身の回りの物に近付けたときの様子について調べる中で、差異点や共通点に気づき、磁石の性質についての疑問をもち、表現すること。	—	—	—			

音楽【内容】

学級・段階		小学部			中学部		高等部		
		1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階	
A 表現	歌唱 (小1段階は音楽遊び)	内容	音楽遊びの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
		思考・判断・表現	音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりに表そうとすること。	歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、好きな歌ややさしい旋律の一部分を自分なりに歌いたいという思いをもつこと。	歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現に対する思いをもつこと。	歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の雰囲気や曲の構造を工夫し、歌唱表現に対する思いや意図をもつこと。	歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、歌唱表現に対する思いや意図をもつこと。	歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。	歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。
		知識	表現する音や音楽に気付くこと。	次のことに気付くこと。 ・曲の特徴的なリズムと旋律。 ・曲名や歌詞に使われている特徴的な言葉。	次のことに気付くこと。 ・曲の雰囲気と曲の速さや強弱との関わり。 ・曲名や歌詞に使われている言葉から受けるイメージと曲の雰囲気との関わり。	次のことに気付くこと。 ・曲名や曲の雰囲気と音楽の構造との関わり。 ・曲想と歌詞の表す情景やイメージとの関わり。	次のことに気付くこと。 ・曲名や曲想と音楽の構造との関わり。 ・曲想と歌詞の表す情景やイメージとの関わり。	次のことについて理解すること。 ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり ・声の音色や響きと発声との関わり	次のことについて理解すること。 ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり ・曲想と音楽の構造と発声との関わり
	技能	音や音楽を感じて体を動かす。音や音楽を感じて楽器の音を出す。音や音楽を感じて声を出す。	思いに合った表現をするための技能。 ・範唱を聴いて、曲の一部を模唱する。 ・自分の歌声に注意を向け、歌う。 ・教師や友達と一緒に歌う。	思いに合った歌い方で歌うための技能。 ・範唱を聴いて歌ったり、歌詞やリズムを意識して歌ったりする。 ・自分の歌声の大きさや発音などに気を付けて歌う。 ・教師や友達と一緒に声を合わせて歌う。	思いや意図にふさわしい歌い方で歌うための技能。 ・範唱を聴いて歌ったり、歌詞を見て歌ったりする。 ・発声の仕方に気を付けて歌う。 ・友達の歌声や伴奏を聴いて声を合わせて歌う。	思いや意図にふさわしい歌い方で歌うための技能。 ・歌詞やリズム、音の高さを意識して歌う。 ・呼吸及び発音の仕方に気を付けて歌う。 ・独唱と、斉唱及び簡単な輪唱などをする。	創意工夫を生かした表現をするために必要な次の技能を身に付けること。 ・範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌う技能 ・呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能 ・互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能	創意工夫を生かした表現をするために必要な次の技能を身に付けること。 ・創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能 ・創意工夫を生かした、全体の響きや各声部の声などを聴きながら、他者と合わせて歌う技能	
	器楽	内容	—	器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
		思考・判断・表現	—	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身近な打楽器などに親しみ音を出そうとする思いをもつこと。	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現に対する思いをもつこと。	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の雰囲気や曲の構造を工夫し、器楽表現に対する思いや意図をもつこと。	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想にふさわしい表現を工夫し、器楽表現に対する思いや意図をもつこと。	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。	
		知識	—	次のことに気付くこと。 ・リズム、速度や強弱のリズム。 ・楽器の音色の違い。	次のことに気付くこと。 ・リズム、速度や強弱の違い。 ・演奏の仕方による楽器の音色の違い。	次のことに気付くこと。 ・曲の雰囲気と音楽の構造との関わり。 ・楽器の音色と全体の響きとの関わり。	次のことに気付くこと。 ・曲想と音楽の構造との関わり。 ・多様な楽器の音色と全体の響きとの関わり。	次のことについて理解すること。 ・曲想と音楽の構造との関わり ・多様な楽器の音色と演奏の仕方との関わり	次のことについて理解すること。 ・曲想と音楽の構造との関わり ・多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり
	技能	—	思いに合った表現をするための技能。 ・範奏を聴き、模倣をして演奏する。 ・身近な打楽器や旋律楽器を演奏する。 ・教師や友達と一緒に演奏する。	思いに合った表現をするための技能。 ・簡単な楽譜などを見てリズム演奏などをする。 ・身近な打楽器や旋律楽器を使って演奏する。 ・教師や友達の楽器の音を聴いて演奏する。	思いや意図にふさわしい表現をするための技能。 ・簡単な楽譜を見てリズムや速度を意識して演奏する。 ・音色や響きに気を付けて、打楽器や旋律楽器を使って演奏する。 ・友達の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する。	思いや意図にふさわしい表現をするための技能。 ・簡単な楽譜を見てリズムや速度、音色などを意識して演奏する。 ・打楽器や旋律楽器の基本的な扱いを意識して、音色や響きに気を付けて演奏する。 ・友達の楽器の音や伴奏を聴いて、リズムや速度を合わせて演奏する。	創意工夫を生かした表現をするために必要な次の技能を身に付けること。 ・範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能 ・音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能 ・各声部の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能	創意工夫を生かした表現をするために必要な次の技能を身に付けること。 ・創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能 ・創意工夫を生かした、全体の響きや各声部の音などを聴きながら、他者と合わせて演奏する技能	
	創作	内容	音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	創作の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	創作の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
		思考・判断・表現	—	音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次のことができるようにする。 ・音遊びを通して、音の面白さに気付く。 ・音や音楽で表現することについて思いをもつ。	音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次のことができるようにする。 ・音遊びを通して、音の面白さに気付いたり、音楽づくりの発想を得たりすること。 ・どのように音を音楽にしていかにについて思いをもつこと。	音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次のことができるようにする。 ・即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ること。 ・音を音楽へと構成することについて思いや意図をもつこと。	音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次のことができるようにする。 ・即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ること。 ・音を音楽へと構成することについて思いや意図をもつこと。	創作表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。	創作表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。
		知識	—	次のことが生み出す面白さなどに触れて気付くこと。 ・声や身の回りの様々な音の特徴。 ・音のつながりの特徴。	次のことが生み出す面白さなどと関わって気付くこと。 ・声や身の回りの様々な音の特徴。 ・リズム・パターンや短い旋律の特徴。	次のことが生み出す面白さなどと関わって気付くこと。 ・いろいろな音の響きの特徴。 ・リズム・パターンや短い旋律のつなぎ方の特徴。	次のことが生み出す面白さなどと関わらせて理解すること。 ・いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴。 ・リズム・パターンや短い旋律のつなぎ方や重なりの特徴。	次のことについて、それらが生み出す面白さなどと関わらせて理解すること。 ・いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴 ・音やフレーズのつなぎ方や重なりの特徴	次のことについて、表したいイメージと関わらせて理解すること。 ・音のつながりの特徴 ・音楽材の特徴及び音の高さや反復、変化、対照などの構成上の特徴
	技能	—	気付きを生かした表現や思いに合った表現をするための技能。 ・音を選んだりつなげたりして表現する。 ・教師や友達と一緒に簡単な音や音楽をつくる。	気付きや発想を生かした表現や、思いに合った表現をするための技能。 ・音を選んだりつなげたりして表現する。 ・教師や友達と一緒に音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる。	発想を生かした表現、思いや意図に合った表現をするための技能。 ・設定した条件に基づいて、音を選択したり組み合わせたりして表現する。 ・音楽の仕組みを生かして、簡単な音楽をつくる。	発想を生かした表現、思いや意図に合った表現をするための技能。 ・設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する。 ・音楽の仕組みを生かして、音楽をつくる。	創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。	創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。	
身体表現	内容	—	身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
	思考・判断・表現	—	身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、簡単なリズムの特徴を感じ取り、体を動かすことについて思いをもつこと。	身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、簡単なリズムや旋律の特徴、歌詞を感じ取り、体を動かすことについて思いをもつこと。	身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、リズムの特徴や曲の雰囲気を感じ取り、体を動かすことについて思いや意図をもつこと。	身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、リズムの特徴や曲想を感じ取り、体を動かすことについて思いや意図をもつこと。	身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身体表現を創意工夫すること。	身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身体表現を創意工夫すること。	
	知識	—	次のことに気付くこと。 ・拍や曲の特徴的なリズム。 ・曲名と動きとの関わり。	次のことに気付くこと。 ・曲のリズム、速度、旋律。 ・曲名、拍やリズムを表す言葉やかけ声、歌詞の一部	次のことに関わりについて気付くこと。 ・曲の雰囲気と音楽の構造との関わり。 ・曲名や歌詞と体の動きとの関わり。	次のことに関わりについて気付くこと。 ・曲想と音楽の構造との関わり。 ・曲名や歌詞と体の動きとの関わり。	次のことに関わりについて理解すること。 ・曲想と音楽の構造との関わり ・曲想と体の動きとの関わり	次のことに関わりについて理解すること。 ・曲想と音楽の構造との関わり ・曲想や音楽の構造と体の動きとの関わり	
技能	—	思いに合った動きで表現するための技能。 ・示範を見て模倣したり、拍や特徴的なリズムを意識したりして手足や身体全体を動かす。 ・音や音楽を聴いて、手足や身体全体を自然に動かす。 ・教師や友達と一緒に体を動かす。	思いに合った体の動きで表現するための技能。 ・示範を見て、拍やリズム、旋律を意識したりして、身体表現をする。 ・音や音楽を聴いて、様々な体の動きで表現する。 ・教師や友達と一緒に体を使って表現する。	思いや意図にふさわしい動きで表現するための技能。 ・示範を見て体を動かしたり、曲の速度やリズム、曲の雰囲気に合わせて身体表現したりする。 ・音や音楽を聴いて、様々な動きを組み合わせたりして表現する。 ・友達と動きを合わせて表現する。	思いや意図にふさわしい動きで表現するための技能。 ・示範を見て表現したり、曲の速度やリズム、曲想に合わせて表現したりする。 ・音や音楽を聴いて、様々な動きを組み合わせたりして表現する。 ・友達と動きを相談して、合わせて表現する。	創意工夫を生かした表現をするために必要な次の技能を身に付けること。 ・曲の速度やリズム、曲想に合わせて表現する技能 ・設定した条件に基づいて、様々な動きを組み合わせたり、即興的に動いたりしてまとまりのある表現をする技能 ・友達と動きを組み合わせたり、即興的に表現したりする技能	創意工夫を生かした表現をするために必要な次の技能を身に付けること。 ・曲の速度やリズム、曲想に合わせて表現する技能 ・設定した条件に基づいて、様々な動きを組み合わせたり、即興的に動いたりしてまとまりのある表現をする技能 ・友達と動きを組み合わせたり、即興的に表現したりする技能		
B 鑑賞	観賞 (小1段階は音楽遊び)	内容	音楽遊びの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
		思考・判断・表現	音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりの楽しさを見付けようとする。	鑑賞についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身近な人の演奏を見たり、体の動きで表したりしながら聴くこと。	鑑賞についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の楽しさを見いだして聴くこと。	鑑賞についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだして聴くこと。	鑑賞についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだして聴くこと。	鑑賞についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだして聴くこと。	
		知識	聴こえてくる音や音楽に気付くこと。	身近な人の演奏に触れて、好きな音色や楽器の音を見付けられること。	曲想や楽器の音色、リズムや速度、旋律の特徴に気付くこと。	曲想とリズムや速度、旋律の特徴との関わりについて分かること。	曲想と音楽の構造等との関わりについて理解すること。	曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。 ・曲想及びその変化と、音楽の構造との関わり ・音楽の特徴とその背景となる文化や歴史などとの関わり	
共通事項	内容	「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。						音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したことの関わりについて考えること。	
	知識	楽譜や色を用いた音符、休符、記号や用語について、音楽における動きと関わらせて、その意味に触れること。						音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。	

図画工作/美術【内容】

学部・段階 内容		小学部			中学部		高等部	
		1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
A 表現	思考・判断・表現	線を引く、絵をかくなどの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身近な出来事や思ったことを基に絵をかき、粘土で形をつくるなどの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	日常生活の出来事や思ったことを基に絵をかいたり、作品をつくり、ついたりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	日常生活の中で経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、描いたり、ついたり、それらを飾ったりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	経験したことや想像したこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、描いたり、ついたり、それらを飾ったりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、描いたり、ついたりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	技能	身の回りの自然物に触れながらかく、切る、ぬる、はるなどすること。	身近な材料や用具を使い、かいたり、形をつくり、ついたりすること。	様々な材料や用具を使い、工夫して絵をかいたり、作品をつくり、ついたりすること。	材料や用具の扱いに親しみ、表したいことに合わせて、表し方を工夫し、材料や用具を選んで使い表すこと。	材料や用具の扱い方を身に付け、表したいことに合わせて材料や用具の特徴を生かしたり、それらを組み合わせたりして計画的に表すこと。	材料や用具の特性の生かし方などを身に付け、意図に応じて表現方法を工夫して表すこと。	材料や用具の特性の生かし方などを身に付け、意図に応じて表現方法を追求し、自分らしさを発揮して表すこと。
B 鑑賞	思考・判断・表現	身の回りにあるものや自分たちの作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身の回りにあるものや自分たちの作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分たちの作品や身の回りにある作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分たちの作品や身近な造形品の鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分たちの作品や美術作品などの鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	美術作品や生活の中の美術の働き、美術文化などの鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	共通事項	・自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などについて気付くこと。 ・形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。	・自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じに気付くこと。 ・形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。	・自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じに気付くこと。 ・形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。	・形や色彩、材料や光などの特徴について知ること。 ・造形的な特徴などからイメージをもつこと。	・形や色彩、材料や光などの特徴について理解すること。 ・造形的な特徴などからイメージを捉えること。	・美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。 ・生活の中の美術や文化遺産などのよさや美しさを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を広げること。	・美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めること。 ・生活や社会の中の美術や文化遺産などのよさや美しさを感じ取り、生活や社会を美しく豊かにする美術の働きや美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。

職業・家庭(職業分野)／職業【内容】

内 容	学 部 ・ 段 階	中 学 部		高 等 部	
		1 段 階	2 段 階	1 段 階	2 段 階
A 職 業 生 活	勤 労 の 意 義 <small>知識・技能 思考・判断・表現 学びに向かう力・人間性</small>	働くことに関心をもち、作業や実習等に関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	働くことに対する意欲や関心を高め、他者と協力して取り組む作業や実習等に関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	勤労に対する意欲や関心を高め、他者と協働して取り組む作業や実習等に関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	勤労の意義について理解を深めること。
		・働くことの目的などを知ること。	・働くことの目的などを理解すること。	・勤労の意義を理解すること。	
		・意欲や見通しをもって取り組み、自分の役割について気付くこと。	・意欲や見通しをもって取り組み、自分と他者との関係や役割について考えること。	・意欲や見通しをもって取り組み、その成果や自分と他者との役割及び他者との協力について考え、表現すること。	・目標をもって取り組み、その成果や自分と他者との役割及び他者との協力について考え、表現すること。
	・作業や実習等で達成感を得ること。	・作業や実習等で達成感を得て、進んで取り組むこと。	・作業や実習等に達成感を得て、計画性をもって主体的に取り組むこと。	・作業や実習等を通して貢献する喜びを体得し、計画性をもって主体的に取り組むこと。	
	職業に関わる事柄について、考えたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	職業に関わる事柄について、考え方を深めたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	職業に関わる事柄について、他者との協働により考えを深めたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
	・職業生活に必要な知識や技能について知ること。 ・職業生活を支える社会の仕組み等があることを知ること。 ・材料や育成する生物等の扱い方及び生産や生育活動等に関する基礎的な技術について知ること。 ・作業課題が分かり、使用する道具の扱い方に慣れること。 ・作業の持続性や巧緻性を身に付けること。	・職業生活に必要な知識や技能を理解すること。 ・職業生活を支える社会の仕組み等があることを理解すること。 ・材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関する基礎的な技術について理解すること。 ・作業課題が分かり、使用する道具や機械等の扱い方を理解すること。 ・作業の確実性や持続性、巧緻性を身に付けること。	・職業生活に必要な実践的な知識及び技能を身に付けること。 ・職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法を理解すること。 ・材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関する技術について理解すること。 ・使用する道具や機械等の特性や扱い方を理解し、作業課題に応じて正しく扱うこと。 ・作業の確実性や持続性、巧緻性を高め、状況に応じて作業すること。	・職業生活に必要な実践的な知識を深め技能を身に付けること。 ・職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法について理解を深めること。 ・材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関する技術について理解を深めること。 ・使用する道具や機械等の特性や扱い方を理解を深め、作業課題に応じて効果的に扱うこと。 ・作業の確実性や持続性、巧緻性を高め、状況に応じて作業し、習熟すること。	
・職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。 ・作業に当たり安全や衛生について気付き、工夫すること。 ・職業生活に必要な健康管理について気付くこと。	・職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について、考えて、発表すること。 ・作業上の安全や衛生及び作業の効率について考えて、工夫すること。 ・職業生活に必要な健康管理について考えること。	・作業や実習における役割を踏まえて、自分の成長や課題について考え、表現すること。 ・生産や生育活動等に関する技術について考えること。 ・作業上の安全や衛生及び作業の効率について考え、改善を図ること。 ・職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方について考えること。	・作業や実習において、自ら適切な役割を見いだすとともに、自分の成長や課題について考え、表現すること。 ・生産や生育活動等に係る技術に込められた工夫について考えること。 ・作業上の安全や衛生及び作業の効率について考え、他者との協働により改善を図ること。 ・職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方の工夫について考えること。		
B 情 報 機 器 の 活 用	情 報 機 器 の 活 用 <small>知識・技能 思考・判断・表現</small>	職業生活で使われるコンピュータ等の情報機器に触れることなどに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	職業生活や社会生活で使われるコンピュータ等の情報機器を扱うことに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	職業生活で使われるコンピュータ等の情報機器を扱うことに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
		・コンピュータ等の情報機器の初歩的な操作の仕方を知ること。	・コンピュータ等の情報機器の基礎的な操作の仕方を知り、扱いに慣れること。	・情報セキュリティ及び情報モラルについて知るとともに、表現、記録、計算、通信に係るコンピュータ等の情報機器について、その特性や機能を知り、操作の仕方が分かり、扱えること。	・情報セキュリティ及び情報モラルについて理解するとともに、表現、記録、計算、通信に係るコンピュータ等の情報機器について、その特性や機能を理解し、目的に応じて適切に操作すること。
		・コンピュータ等の情報機器に触れ、体験したことなどを他者に伝えること。	・コンピュータ等の情報機器を扱い、体験したことや自分の考えを表現すること。	・情報セキュリティ及び情報モラルを踏まえ、コンピュータ等の情報機器を扱い、収集した情報をまとめ、考えたことを発表すること。	・情報セキュリティ及び情報モラルを踏まえ、コンピュータ等の情報機器を扱い、収集した情報をまとめ、考えたことについて適切に表現すること。
C 産 業 現 場 等 に お け る 実 習	産 業 現 場 等 に お け る 実 習 <small>知識・技能 思考・判断・表現</small>	実際の学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		産業現場等における実習を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
		・職業や進路に関わることについて関心をもったり、調べたりすること。	・職業や進路に関わることについて調べて、理解すること	・職業など卒業後の進路に必要なことについて理解すること。	・職業など卒業後の進路に必要なことについて理解を深めること。
		・職業や職業生活、進路に関わることについて、気付き、他者に伝えること。	・職業や職業生活、進路に関わることと自己の成長などについて考えて、発表すること。	・産業現場等における実習での自己の成長について考えたことを表現すること。	・産業現場等における実習で課題の解決について考えたことを表現すること。

職業・家庭(家庭分野)／家庭【内容】

内 容	中学部		高等部		
	1段階	2段階	1段階	2段階	
A 家族・家庭生活	自分の成長と家族	自分の成長に気付くことや家族のことに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・自分の成長を振り返りながら、家庭生活の大切さを知ること。 ・家族とのやりとりを通して、家族を大切にす気持ちを育み、よりよい関わり方について気付き、それらを他者に伝えること。	自分の成長と家族や家庭生活などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・自分の成長を振り返り、家庭生活の大切さを理解すること。 ・家族とのやりとりを通して、家族を大切にす気持ちを育み、よりよい関わり方について考え、表現すること。	自分の成長と家族や家庭生活などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家庭生活が家族の協力によって営まれていることに気付くこと。 ・家族とのよりよい関わり方について考え、表現すること。	自分の成長と家族や家庭生活の関わりが分かり、家庭生活が家族の協力によって営まれていることを理解すること。 ・家族とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。
	家庭生活での役割と地域との関わり	家庭の中での役割などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・家庭における役割や地域との関わりについて関心をもち、知ること。 ・家庭生活に必要なことや自分の果たす役割に気付き、それらを他者に伝えること。	家庭における役割や地域との関わりについて調べて、理解すること。 ・家庭生活に必要なことに関して、家族の一員として、自分の果たす役割を考え、表現すること。	家族との触れ合いや地域の人々と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・家庭生活において、地域の人々との協力が大切であることに気付くこと。 ・家族と地域の人々とのよりよい関わり方について考え、表現すること。	家族や地域の人々などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・家庭生活において、地域の人々との協力が大切であることを理解すること。 ・家族と地域の人々とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。
	家庭生活における健康管理と余暇	家庭における余暇の過ごし方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・健康や様々な余暇の過ごし方について知り、実践しようとする事。 ・望ましい生活環境や健康及び様々な余暇の過ごし方について気付き、工夫すること。	家庭生活における健康管理や余暇に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・健康管理や余暇の過ごし方について理解し、実践すること。 ・望ましい生活環境や健康管理及び自分に合った余暇の過ごし方について考え、表現すること。	家庭生活における健康管理や余暇に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・健康管理や余暇の有効な過ごし方について理解し、実践すること。 ・健康管理や余暇の有効な過ごし方について考え、表現すること。	健康管理や余暇の有効な過ごし方について理解を深め、実践すること。 ・健康管理や余暇の有効な過ごし方について考え、工夫すること。
	乳幼児や高齢者などの生活	幼児と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・幼児の特徴や過ごし方について知ること。 ・幼児への適切な関わり方について気付き、それらを他者に伝えること。	家族との触れ合いや地域の人々と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・地域生活や地域の活動について調べて、理解すること。 ・家族との触れ合いや地域生活に関心をもち、家族や地域の人々と地域活動への関わりについて気付き、表現すること。	乳幼児や高齢者と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・乳幼児や高齢者などの生活の特徴、乳幼児や高齢者などとの関わり方について気付くこと。 ・乳幼児や高齢者などとのよりよい関わり方について考え、表現すること。	乳幼児や高齢者などの生活の特徴が分かり、乳幼児や高齢者などとの関わり方について理解すること。 ・乳幼児や高齢者などとのよりよい関わり方について考え、工夫すること。
	食事の役割	食事の仕方や食事の大切さに気付くことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・健康な生活と食事の役割について知ること。 ・適切な量の食事を楽しくとることの大切さに気付き、それらを他者に伝えること。	楽しく食事をするための工夫などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・健康な生活と食事の役割や日常の食事の大切を理解すること。 ・日常の食事の大切や規則正しい食事の必要性を考え、表現すること。	食事の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・生活の中で食事が果たす役割について理解すること。 ・健康により食習慣について考え、工夫すること。	—
B 日常生活	栄養を考えた食事	—	バランスのとれた食事について考えることに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・身体に必要な栄養について関心をもち、理解し、実践すること。 ・バランスのとれた食事について気付き、献立などを工夫すること。	—	自分に必要な栄養を満たす食事に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・自分に必要な栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的特質について理解すること。 ・一日分の献立について考え、工夫すること。
	日常食の調理	必要な材料を使って食事の準備をすることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・簡単な調理の仕方や手順について知り、できるようすること。 ・簡単な調理計画について考えること。	食事の準備や調理の仕方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・調理に必要な材料の分量や手順などについて理解し、適切にできること。 ・調理計画に沿って、調理の手順や仕方を工夫すること。	日常食の調理に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択、食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理、材料に適した加熱調理の仕方について知り、基礎的な日常食の調理ができること。 ・基礎的な日常食の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、表現すること。	日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択、食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理、材料に適した加熱調理の仕方について理解し、基礎的な日常食の調理が適切にできること。 ・基礎的な日常食の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること。
	衣服の選択	衣服の着方や手入れの仕方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・場面に応じた日常着の着方や手入れの仕方などについて知り、実践しようとする事。 ・日常着の着方や手入れの仕方に気付き、工夫すること。	衣服の手入れや洗濯の仕方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・日常着の使い分けや手入れの仕方などについて理解し、実践すること。 ・日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること。	衣服の選択に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解すること。 ・衣服の選択について考え、工夫すること。	衣服の手入れに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできること。 ・衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて考え、工夫すること。
	布を用いた製作	—	—	布を用いた製作に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解し、適切にできること。 ・目的に応じた縫い方について考え、工夫すること。	製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解すること。 ・布を用いた簡単な物の製作計画を考え、製作を工夫すること。
	住居の基本的な機能と快適で安全な住まい方	持ち物の整理や住まいの清掃などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・住まいの主な働きや、整理・整頓や清掃の仕方について知り、実践しようとする事。 ・季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方に気付き、工夫すること。	住まいの整理・整頓や清掃などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・快適な住まい方や、安全について理解し、実践すること。 ・季節の変化に合わせた快適な住まい方に気付き、工夫すること。	住居の基本的な機能や快適で安全な住まい方に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・家族の生活と住空間との関わりや住居の基本的な機能について知ること。 ・家族の安全や快適さを考えた住空間について考え、表現すること。	家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解すること。 ・家族の安全や快適さを考えた住空間の整え方について考え、工夫すること。
C 消費生活・環境	消費生活	買い物の仕組みや必要な物の選び方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・生活に必要な物の選び方、買い方、計画的な使い方などについて知り、実践しようとする事。 ・生活に必要な物を選んだり、物を大切に使うこと。	身近な消費生活について考えることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・生活に必要な物の選択や扱い方について理解し、実践すること。 ・生活に必要な物について考えて選ぶことや、物を大切に使う工夫をすること。	消費生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・購入方法や支払方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性に気付くこと。 ・売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理ができること。 ・物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、表現すること。	購入方法や支払方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解すること。 ・売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできること。 ・物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫すること。
	消費者の基本的な権利と責任	身近な生活の中で環境に配慮することに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて知り、実践しようとする事。 ・身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて考え、工夫すること。	自分の生活と環境との関連などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・身近な生活の中での環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解し、実践すること。 ・身近な生活の中で、環境との関わりや環境に配慮した生活について考えて、物の使い方などを工夫すること。	消費者の基本的な権利と責任に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について気付くこと。 ・身近な消費生活について、自立した消費者として責任ある消費行動を考え、表現すること。	消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。 ・身近な消費生活について、自立した消費者として責任ある消費行動を考え、工夫すること。

外国語活動／外国語【内容】

内 容	学部・段階		高等部	
	小学部(外国語活動)	中学部	1段階	2段階
知 識・技 能 ア 英語の特徴等に関する事項	具体的な言語の使用場面や具体的な状況における言語活動を通して、次の事項を見に付けることができるよう指導する。 ○言語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを知ること。 ○日本と外国の言語や文化について、以下の体験を通して慣れ親しむこと。 ・英語の歌や日常生活になじみのある語などを聞き、音声やリズムに親しむこと。 ・外国の生活や行事などに触れ、日本と外国の生活や違いを知ること。	実際に英語を用いた場面や状況等における言語活動を通して、次の事項を見に付けることができるよう指導する。 ○英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむこと。 ・英語の音声や文字も、真似て声を出したり、話したりしようとする事。 ・英語の音声や文字も、事物の内容を表したり、要件を伝えたりなどの働きがあることを感じ取る事。 ・基本的な表現や語句が表す内容を知り、それらを使うことで相手に伝わることを感じ取る事。 ○日本と外国の言語や文化に慣れ親しむこと。 ・体験的な活動を通して、日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知ること。 ・対話的な活動を通して、相手の発言をよく聞こうとしたり、相づちや表情、ジェスチャーなどで応じようとしたりすること。	実際に英語を用いた場面や状況等における言語活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ○英語の音声及び簡単な語句や基本的な表現などについて、日本語との違いに気付くこと。 ・英語の音声や文字も、事物の内容を表したり、要件を伝えたりするなどの働きがあることに気付くこと。 ・簡単な語句や基本的な表現などが表す内容を知り、それらを使うことで要件が相手に伝わることに気付くこと。	○英語の音声及び簡単な語句や基本的な表現などについて、日本語との違いに気付くこと。 ・英語の音声や文字も、事物の内容を表したり、要件を伝えたりするなどの働きがあることに気付くこと。 ・簡単な語句や基本的な表現などが表す内容を知り、それらを使うことで要件が相手に伝わることに気付くこと。
	イ 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに 関する事項 (小学部：自分の考えや気持ちなどを表現したり、伝えたりする力の素地に関する事項、中学部：情報を整理し、表現したり、伝え合ったりすることに 関する事項)	具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面などに応じて表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ○身近で簡単な事柄について、注目して見聞きしようとする事。 ○身近で簡単な事柄について、相手の働きかけに応じようとする事。	具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて情報や考えなどを表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ○日常生活に関する簡単な事柄について、伝えたいことを考え、簡単な語などや基本的な表現を使って伝え合うこと。 ○日常生活に関する簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどが伝わるよう、工夫して質問をしたり、質問に答えたりすること。	具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これら表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ○簡単な事柄について、伝えようとした内容を整理した上で、簡単な語句などを用いて自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。 ○身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語彙などが表す事柄を想像しながら読んだり、書いたりすること。

内 容	学部・段階		高等部	
	小学部(外国語活動)	中学部(外国語)	1段階	2段階
思 考・判 断・表 現 ウ 言語活動及び言語の働きに関する事項	イに示す事項については、アに示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を取り上げるようにする。 ○聞くこと。 ・既に経験している活動や場面で、英語の挨拶や語などを聞き取る活動。 ・既に知っている物や事柄に関する語などを聞き、それが表す内容を実物や写真などと結び付ける活動。	イに示す事項については、アに示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を取り上げるようにする。 ○聞くこと。 ・文字の発音を聞いて文字と結び付ける活動 ・身近で具体的な事柄に関する簡単な英語を聞き、それが表す内容をイラストや写真と結び付ける活動。 ・挨拶や簡単な指示に応じる活動。	イに示す事項については、アに示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を通して指導する。 ○聞くこと ・自分に関する簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。 ・日付や時刻、値段などを表す表現など、身近で簡単な事柄について、表示などを参考にしながら具体的な情報を聞き取る活動。	○聞くこと ・自分のことや学校生活など身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。 ・日付や時刻、値段などを表す表現など、身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取る活動。 ・友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を、イラストや写真を参考にしながら聞いて、必要な情報を聞き取る活動。
	○話すこと。 ・既に経験している活動や場面で、実物や写真などを示しながら自分の名前や好きなものなどを簡単な語などを用いて伝える活動。 ・既に知っている歌やダンス、ゲームで、簡単な語や身振りを使って表現する活動。	○話すこと[発表]。 ・自分の名前、年齢、好みなどを簡単な語などや基本的な表現を用いて表現する活動。 ・身近で具体的な事柄の様子や状態を簡単な語などや基本的な表現、ジェスチャーを用いて表現する活動。	○話すこと[発表]。 ・簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなどを含めて自己紹介をする活動。	○話すこと[発表]。 ・簡単な語句や基本的な表現を用いて、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちを話す活動。
	—	○話すこと[やり取り]。 ・簡単な挨拶をし合う活動。 ・自分のことについて、具体物などを相手に見せながら、好みや要求などの自分の考えや気持ちを伝え合う活動。 ・ゆっくり話される簡単な質問に、英語の語など又は身振りや動作などで応じる活動。	○話すこと[やり取り]。 ・挨拶を交わしたり、簡単な指示や依頼をして、それらに応じたり断ったりする活動。	○話すこと[やり取り]。 ・身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動。
	—	○書くこと。 ・身近な事柄を表す文字を書く活動。 ・例示を見ながら自分の名前を書き写す活動。	○書くこと ・活字体の大文字、小文字を区別して書く活動。 ・相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語彙などを書き写す活動。	○書くこと ・相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語彙などを書き写す活動。
	—	○読むこと。 ・身の回りで使われている文字や単語を見付ける活動。 ・日本の人の名前や地名の英語表記に使われている文字を読む活動。	○読むこと ・活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。 ・活字体で書かれた文字を見て、その読み方を発音する活動。	○読むこと ・日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。 ・音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語彙などを、挿絵がある本などの中から識別する活動。
	言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。	言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。	言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。	2段階の言語活動を行うに当たっては、1段階の言語の働きに関する事項を踏まえ、生徒の学習状況に応じた言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。
	⑦ 言語の使用場面の例	○特有の表現がよく使われる場面 ・挨拶 ・自己紹介 など ○児童の遊びや身近な暮らしに関わる場面 ・歌やダンスを含む遊び ・家庭での生活 ・学校での学習や活動 など	○特有の表現がよく使われる場面 ・挨拶をする ・買物をする ・自己紹介をする ・食事をする など	○特有の表現がよく使われる場面 ・挨拶 ・食事 ・自己紹介 ・道案内 ・買物 ・旅行 など
	⑧ 言語の働きに関する事項	○コミュニケーションを円滑にする ・挨拶をする ○気持ちを伝える ・礼を言う など	○コミュニケーションを円滑にする ・挨拶をする ・相づちを打つ ○気持ちを伝える ・礼を言う ・褒める	○コミュニケーションを円滑にする ・挨拶をする ・呼び掛ける ・相づちを打つ ・聞き直す など ○気持ちを伝える ・礼を言う ・褒める
	⑨ 言語の働きの例	—	—	○事実・情報を伝える ・説明する ・発表する など ・報告する ○考えや意図を伝える ・意見を言う ・承諾する ・賛成する ・断る など
	—	○相手の行動を促す ・質問する	○相手の行動を促す ・質問する ・命令する など	○相手の行動を促す ・依頼する
(その他の外国語)	—	その他の外国語については、〔英語〕に示す内容に準じて指導を行うものとする。	—	

特別支援学校教育課程編成の手引 [高等部] 作成委員

所 属	職 名	氏 名	備 考
県 立 盲 学 校	教 諭	黒 川 光 子	
県 立 聾 学 校	教 諭	小 川 友 紀 子	
県立岡本特別支援学校	教 諭	近 藤 珠 穂	
県立宇都宮青葉高等学園	教 諭	原 純 恵	
県立今市特別支援学校	教 諭	鈴 木 敦 子	
県立国分寺特別支援学校	主幹教諭	木 戸 朋 子	副委員長
県立栃木特別支援学校	教 諭	塚 原 紀 美 子	
県立南那須特別支援学校	主幹教諭	鈴 木 輝 美	委員長
総 合 教 育 セ ン タ ー	指 導 主 事	田 上 岳	

本手引の作成は、栃木県教育委員会事務局特別支援教育室 指導主事 赤堀雅史 が担当した。
 なお、編集に当たり、栃木県教育委員会事務局から、次の者が参加した。

特別支援教育室	室長補佐 (総括)	松村 和美
同	副 主 幹	玉田 敦子
同	副 主 幹	藤本 勝
同	係 長	海老沢 豊
同	副 主 幹	矢野 勝昭
同	副 主 幹	青柳 晋作
同	指 導 主 事	岩崎 実香
同	指 導 主 事	田辺 さや佳

特別支援学校教育課程編成の手引
 [高等部]

令和 2 (2020) 年 3 月
 栃木県教育委員会